

平成28年版  
森林総合研究所北海道支所  
年 報

Annual Report 2016



国立研究開発法人 森林総合研究所北海道支所  
Hokkaido Research Center  
Forestry and Forest Products Research Institute

# 平成 28 年版森林総合研究所北海道支所年報

## 目 次

はじめに	1
I. 森林総合研究所研究課題一覧	2
II. 鳥類標識調査結果	5
III. 産学官連携報告	17
IV. 広報活動	17
V. 研究業績	22
VI. 資料	
1. 会議	38
2. 諸行事	39
3. その他の諸会議	39
4. 職員の研修・講習	40
5. 受託出張	41
6. 外国出張	46
7. 研修生の受入	47
8. 来訪者	48
9. 広報活動	49
10. 図書収集・利用	50
11. 固定試験地・収穫試験地	51
12. 羊ヶ丘実験林の試験林一覧	52
13. 羊ヶ丘の気象	53
VII. 総務	
1. 沿革	56
2. 土地・施設	57
3. 組織	58
4. 職員の異動	59
5. 職員名簿	60
6. 事業予算額	61

## はじめに

森林総合研究所は、「森林・林業・木材産業に係わる研究を通じて、豊かで多様な森林の恵みを生かした循環型社会の形成に努め、人類の持続可能な発展に寄与する」とのミッションを掲げ、森林・林業・木材産業に関する総合的研究機関としてその役割を果たすべく努力をして参りました。その中で、北海道支所は、北方森林の自然力を高度に活用した管理技術の確立を柱として掲げ、これまで積極的に研究を推進してきました。また、産学官連携の推進、研究所で得られた研究成果の社会還元を今まで以上に図ってきました。

平成 23 年 4 月に始まった第 3 期中期計画（5 カ年）の最終年度である 27 年度において、北海道支所の代表的な研究成果としては、農林水産省研究開発事業「先進機械を活用した伐採・造林一貫システムによる低コスト人工林管理技術の開発」において実施した、林内走行型機械を用いた短幹集材、クラッシャー地拵え、コンテナ苗の活用、低密度植栽等を組み合わせた伐採・造林一貫システムによる低コスト化の研究が掲げられます。この研究は下川町との共同研究であり、公開シンポジウム「前進する北の林業－先進機械による伐採・造林一貫システム－」（28 年 2 月）や、現地検討会の開催などにより、成果を公表してきました。

また、北海道大学農学部森林科学科、(地独) 北海道立総合研究機構林業試験場との共同研究「トドマツ人工林における保残伐施業の実証実験」においては、針葉樹人工林の中に広葉樹の林冠木を保残することで、生物多様性保全機能を向上が期待できることを実証しました。

これらの成果は、研究内容のみならず、産学官連携と社会還元の視点からも、第 3 期中期計画の最終年度にふさわしい研究成果であると考えています。

本報告書は、平成 27 年度に北海道支所で行った研究活動、業務の概要をまとめたもので、林業研究はもとより、森林の公益的機能を解明し、活用する、様々な研究成果が含まれています。ご一読いただき、研究内容に関するご質問、ご要望、ご意見等をお寄せいただければ幸いです。

平成 29 年 3 月

国立研究開発法人 森林総合研究所 北海道支所長 松本光朗

I. 森林総合研究所課題一覧

重点課題	研究機関 (年度)	課題責任者	支所担当者	予算科目	
研究課題群		北海道支所以外の者は所属を括弧書き			
課題番号	研究課題名				
A	<b>地域に対応した多様な森林管理技術の開発</b>	千葉幸弘(研究COD)			
A1	<b>多様な施業システムに対応した森林管理技術の開発</b>	梶本卓也(領域長)			
A1P06	コンテナ苗を活用した低コスト再造林技術の実証研究	26 ~ 27	梶本卓也(領域長)	原山尚徳	政府外受託事業費 (独)農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター 攻めの農林水産業の革新的技術緊急展開事業
A1P08	トドマツ人工林主伐に対応した低コスト天然更新施業・管理システムの開発	27 ~ 30	牧野俊一	牧野俊一 山口岳広 韓慶民 石橋聡 嶋瀬拓也 関剛 津山幾太郎 相澤州平 上村章 橋本徹 伊藤江利子 原山尚徳 延廣竜彦 佐山勝彦 古家直行	事業費 特別研究費(交付金プロ1)
A11	<b>樹木の更新と成長を促進する管理技術の開発</b>	正木隆(領域長)			
A111	コンテナ苗による新たな更新技術の開発	23 ~ 27	山田健(機械技術研究室長)	上村章	事業費 一般研究費
A112	多様な森林施業の確立に向けた樹木の成長管理手法の開発	23 ~ 27	齊藤哲(物質生産研究室長)	韓慶民 関剛 上村章 原山尚徳	事業費 一般研究費
A113	健全な物質循環維持のための診断指標の開発	23 ~ 27	平井敬三(養分動態研究室長)	相澤州平 橋本徹	事業費 一般研究費
A11S10	養分制限を解除したウダイカンパにおけるマस्टィング資源の配備様式	23 ~ 27	伊藤江利子	伊藤江利子	科学研究費補助金 基盤C
A11S15	間伐遅れと窒素飽和の複合作用が森林土壌の炭素蓄積量に及ぼす影響の解明	24 ~ 27	相澤州平	相澤州平 伊藤江利子	科学研究費補助金 基盤C
A11S19	林業機械の走行が林床の植生発達と樹木の更新に与える影響の解明	25 ~ 27	倉本 恵生(チーム長)	橋本徹	科学研究費補助金 基盤C
A11S29	渇水による樹木枯死要因の解明:喉の渇きか空腹か?	27 ~ 29	原山尚徳	原山尚徳	科学研究費補助金 基盤C
A12	<b>地域の自然環境に対応した資源管理技術の開発</b>	家原敏郎(関西支所)			
A123	北方育成天然林の資源有効利用に向けた施業管理技術の開発	23 ~ 27	石橋聡	石橋聡 関剛 北村系子 津山幾太郎 中西敦史 佐山勝彦 松浦友紀子 八巻一成 古家直行	事業費 一般研究費
A2	<b>森林の機能発揮のための森林資源情報の活用技術の開発</b>	佐野真(領域長)			
A2P04	低コストな森林情報把握技術の開発	25 ~ 29	佐野真(領域長)	古家直行	政府委託事業費 農林水産省(農林水産技術会議事務局) 委託プロジェクト
A21	<b>多様な森林タイプに適した森林利用・管理技術の開発</b>	鷹尾元(チーム長)			
A211	多様な森林機能の評価・配置手法の開発	23 ~ 27	鷹尾元(チーム長)	石橋聡 八巻一成 古家直行	事業費 一般研究費
A21S29	北海道太平洋沿岸の海霧を考慮した気候的乾湿度に対する海浜樹木の環境応答	26 ~ 28	伊藤江利子	伊藤江利子	科学研究費補助金 基盤C(分担)
B	<b>国産材の安定供給のための新たな素材生産技術及び林業経営システムの開発</b>	清野嘉之(研究COD)			
B1	<b>路網整備と機械化等による素材生産技術の開発</b>	陣川雅樹(領域長)			
B1P03	先進機械を活用した伐採・造林一貫一貫システムによる低コスト人工林管理技術の開発	25 ~ 27	佐々木尚三	佐々木尚三 津山幾太郎 上村章 伊藤江利子 原山尚徳	政府委託事業 農林水産省(農林水産技術会議事務局) 農食研事業
B1P05	育林作業用精密ロボット技術の開発	26 ~ 27	山田健(機械技術研究室長)	古家直行	政府委託事業 農林水産省大臣官房 農林水産省におけるロボット技術導入実証事業(大規模導入実証)(補助金)
B2	<b>国産材の効率的な供給のための林業経営・流通システムの開発</b>	山田茂樹(領域長)			
B2P02	木材需給調整手法の解明と新たな原木流通システムの提案	25 ~ 27	久保山裕史(林業システム研究室長)	嶋瀬拓也	事業費 特別研究費(交付金プロ1)
B2P03	マテリアル用国内広葉樹資源の需給実態の解明と需要拡大に向けた対応方策の提案	27 ~ 29	青井秀樹(チーム長)	嶋瀬拓也	事業費 特別研究費(交付金プロ1)

B21	木材利用拡大に向けた林業・木材産業振興方策の提示			山田茂樹(領域長)				
B211	木材利用拡大に向けた林業振興のための条件と推進方策の解明	23 ~ 25	岡裕泰(チーム長)	嶋瀬拓也	事業費		一般研究費	
B21S11	製紙資本における多角化状況の違いが企業自身及び林業・木材産業の発展に与えた影響	25 ~ 29	嶋瀬 拓也		科学研究費補助金		基盤C	
B21S14	コモンズ利用とネットワーク変容の相互連関に関する比較歴史制度分析	25 ~ 27	林 雅秀(東北支所)	八巻一成	科学研究費補助金		萌芽(分担)	
B21S20	道産カンパ類の高付加価値用途への技術開発	27 ~ 29	嶋瀬拓也	嶋瀬拓也	共同研究	(地独)北海道立総合研究機構	共同研究	
D	新規需要の獲得に向けた木質バイオマスの総合利用技術の開発			木口実(研究COD)				
D1	木質バイオマスの安定供給と地域利用システムの構築			陣川雅樹(領域長)				
D1P07	木質バイオマス発電事業の安定的な拡大手法の開発	27 ~ 29	久保山裕史(林業システム研究室長)	嶋瀬拓也	事業費		特別研究費(交付金プロ1)	
D11	地域利用を目指した木質バイオマス資源生産技術の開発			宇都木玄(チーム長)				
D111	北海道における木質バイオマス資源作物の生産促進技術の開発	23 ~ 27	韓慶民	韓慶民 山口岳広 上村章 伊藤江利子 原山尚徳 石原誠 松浦友紀子 古家直行	事業費		一般研究費	
E	森林への温暖化影響評価の高度化と適応及び緩和技術の開発			松本光朗(研究COD)				
E1	炭素動態観測手法の精緻化と温暖化適応及び緩和技術の開発			平田泰雅(温暖化対応推進拠点長)				
E1P02	森林吸収量把握システムの実用化に関する研究	15 ~ 27	金子真司(領域長)	相澤州平	政府委託事業	農林水産省(林野庁)	森林吸収源インベントリ情報整備事業	
E1P08	センサーネットワーク化と自動解析化による陸域生態系の炭素循環変動把握の精緻化に関する研究	24 ~ 27	山野井克己	山野井克己 溝口康子	政府委託事業	環境省	地球一括	
E1P11	緩和策と適応策に資する森林生態系機能とサービスの評価	27 ~ 31	松井哲哉	津山幾太郎	政府等外委託事業費	横浜国立大学	環境省 環境研究総合推進費 再委託	
E1P13	森林吸収源インベントリ情報整備事業(審査対応等(次期枠組みにおける森林吸収量の算定・計算方法に係る調査・分析))	27 ~ 27	平田泰雅(温暖化対応推進拠点長)	石橋聡 古家直行	政府等外委託事業費	(一般)日本森林技術協会	委託元:林野庁	
E1P14	適応策評価のための森林生態系適域推計モデル開発	27 ~ 31	松井哲哉	津山幾太郎	政府等外委託事業費	国立環境研究所	文部科学省 気候変動適応技術社会実装プログラム(SI-CAT)	
E11	森林炭素動態等把握の精緻化とパラメタリゼーションの高度化			後藤義明(領域長)				
E111	タワー観測を用いた群落炭素収支機能等を表すパラメータセットの構築と評価	23 ~ 27	玉井幸治(水保全研究室長)	山野井克己 溝口康子	事業費		一般研究費	
F	気候変動に対応した水資源保全と山地災害防止技術の開発			高橋正通(研究COD)				
F1	環境変動・施策等が水資源・水質に与える影響評価技術の開発			金子真司(領域長)				
F1P12	森林流域からの水資源供給量に関わる気候変動の影響評価	25 ~ 29	玉井幸治(水保全研究室長)	延廣竜彦	政府委託事業	農林水産省(農林水産技術会議事務局)	委託プロジェクト	
F11	森林における水文・水質形成過程の変動評価手法の開発			大貫靖浩				
F111	森林における水文過程の変動予測手法の開発	23 ~ 25	玉井幸治(水保全研究室長)	相澤州平 延廣竜彦	事業費		一般研究費	
F11S22	森林生態系の土壌に沈着したセシウム137の分布の長期変動予測	25 ~ 28	三浦寛(領域付派遣職員)	伊藤江利子	科学研究費補助金		基盤B(分担)	
F2	多様な手法による森林の山地災害防止機能強化技術の開発			大丸裕武(領域長)				
F2P13	森林気象害のリスク評価手法に関する研究	27 ~ 31	後藤義明(領域長)	山野井克己	事業費	森林保健センター	所内委託プロ	
G	森林の生物多様性の保全と評価・管理・利用技術の開発			小泉透(研究COD)				
G1	シカ等生物による被害軽減・共存技術の開発			佐橋憲生(領域長)				
G1P13	ニホンジカ生息地におけるスギ・ヒノキ再造林手法の開発	26 ~ 28	外崎真理雄(四国支所)	佐藤重穂	事業費		特別研究費(交付金プロ1)	
G11	生物害による被害軽減・制御技術の開発			岡輝樹(鳥獣生態研究室長)				
G111	生態情報を利用した環境低負荷型広域病虫害管理技術の開発	23 ~ 27	佐橋憲生(領域長)	石原誠	事業費		一般研究費	
G112	野生動物管理技術の高度化	23 ~ 27	岡輝樹(鳥獣生態研究室長)	佐藤重穂	事業費		一般研究費	
G2	生物多様性を保全するための森林管理・利用技術の開発			尾崎研一(領域長)				
G21	森林の生物多様性の保全技術および評価手法の開発			堀野眞一(領域長)				
G213	森林の生物多様性の質と機能の評価手法の開発	23 ~ 27	長谷川元洋(四国支所)	佐山勝彦	事業費		一般研究費	
G21S34	ブナ林堅果豊凶メカニズムの解明:花芽形成期における資源の需給バランスの役割	25 ~ 28	韓慶民	韓慶民	科学研究費補助金		基盤B	
G21S38	鳥嶼における北限ブナ林の植生および遺伝変異の地理的構造と地史的な成立過程	25 ~ 27	北村系子	北村系子	科学研究費補助金		基盤C(分担)	
G21S39	人工林において生物多様性保全と木材生産は両立できるか?	25 ~ 27	尾崎研一	佐山 勝彦	政府外委託事業	(地独)道総研	住友財団(分担)	
G21S40	他種スズメバチに社会寄生するチャイロスズメバチの分布域と生息密度の増大の要因解明	25 ~ 27	佐山勝彦	佐山勝彦	科学研究費補助金		基盤C	
G21S46	開花遺伝子発現量と土壌・植物養分条件の統合分析による一斉開花機構の解明	26 ~ 28	韓慶民	韓慶民	科学研究費補助金		基盤A(分担)	
G21S47	遺伝情報に基づいた侵略的外来種ソウシチョウの駆除管理ユニットの策定	26 ~ 28	石橋靖幸	石橋靖幸	科学研究費補助金		基盤C(分担)	
I	森林遺伝資源を活用した生物機能の解明と利用技術の開発			河原孝行(研究COD)				
I2	ゲノム情報を活用した森林植物の遺伝的多様性の解明と保全・評価技術の開発			松本麻子(樹木遺伝研究室長)				

I21	<b>森林植物の遺伝的多様性の保全・評価技術の開発</b>			松本麻子(樹木遺伝研究室長)			
I211	ゲノム情報に基づく森林植物の遺伝的多様性の解明と評価手法の開発	23 ~ 27	松本麻子(樹木遺伝研究室長)	北村系子 中西敦史	事業費		一般研究費
I21S20	北方針葉樹における標高適応に関わるフェノロジーの分子遺伝機構	25 ~ 27	上野真義(チーム長)	北村系子	科学研究費補助金		基盤B(分担)
I21S29	樹木種の浸透性交雑を通じた適応的遺伝子の獲得プロセスの解明	27 ~ 29	内山憲太郎(樹木遺伝研究室)	津山幾太郎	科学研究費補助金		基盤C(分担)
I21S32	針葉樹更新初期過程に顕在化する近交弱勢遺伝子のゲノムワイド探索	27 ~ 29	北村系子	北村系子	科学研究費補助金		挑戦的萌芽(分担)
K	<b>基盤事業</b>						
K105	降雨溪流水質モニタリング	23 ~ 25	金子真司(領域長)	相澤洲平 古家直行	事業費		基盤事業費

## Ⅱ. 平成 26、27 年度羊ヶ丘実験林鳥類標識調査結果

契約職員 川路則友

### [はじめに]

北海道支所では、平成元年から環境省受託事業である鳥類標識調査（以下、バンディング）を実験林内（以下、羊ヶ丘実験林）で継続的に行っており、これまでに合計 5 万 6 千羽もの鳥類をあらたに捕獲、放鳥している。調査は鳥類標識調査員として登録された職員 2 名（河原孝行および川路則友）により、それぞれが北海道支所に在籍した期間に応じて行ってきた。すなわち川路が支所へ着任した平成元年～8 年は川路により、その後川路が本所へ異動し、河原が 9 年に支所へ着任したことにより、平成 9 年～21 年は河原により、また川路が再度支所へ着任した平成 22 年と平成 23 年は両者で、さらに平成 24 年 4 月に河原が四国支所へ異動して以降は（現在は本所、川路のみで調査を継続して行っている。バンディング事業の意義等については、山階鳥類研究所のホームページ

[http://www.yamashina.or.jp/hp/ashiwa/ashiwa\\_index.html#09](http://www.yamashina.or.jp/hp/ashiwa/ashiwa_index.html#09)) を参照されたい。北海道支所においては、バンディングを単なる受託事業として行うだけでなく、その成果を実験林に生息する森林性鳥類の渡り傾向、繁殖生態の解明研究にも積極的に応用してきた（たとえば、川路・広川 1998、川路・河原 2013、上沖ら 2014 など）。また、例年行っている春秋の渡り期、巢内ヒナへのバンディングに加えて、平成 25 年度から開始した「標準化された標識調査による鳥類繁殖モニタリング（以下、繁殖鳥モニタリング調査）」を 26 年度および 27 年度も継続して行った（同調査の意義については、川路 2015 を参照）。

### [材料と方法]

平成 26 年度は 4 月 21 日から 11 月 8 日までの間で合計 60 日間、27 年度は 4 月 20 日から 11 月 16 日までの間で合計 63 日間の調査を行った。春秋の渡り期にはおもに実験林内を通過する渡り鳥に、繁殖期には実験林内で営巣するヤブサメ、センダイムシクイ、コルリ、アオジといった森林性鳥類の巢内ヒナに足環を付け放鳥したほか、定期的に繁殖鳥モニタリング調査を行った。

調査には、鳥類標識調査用の鳥獣捕獲許可（学術研究用捕獲許可の一種）を取得し、実験林内 3 林班、5 林班、6 林班、7 林班および 8 林班の適当な場所に捕獲用網（カスミ網）を設置して行った。調査はおもに早朝（日の出時刻前後）から開始し、捕獲効率が低下する（川路 1996）とされ

る 9:00am ころまでで調査を終えた。網場の見回りはなるべく頻繁に行い、捕獲された鳥類への負担が少なくなるように努めた。また足環の装着後、必要に応じて観察、体部計測等を行ったのち、すみやかに放鳥した。巢内ヒナへのバンディングは、その種の成鳥に付けるものと同じサイズの足環が付けられるほどにじゅうぶん脚部が成長し、しかも巢から強制巣立ちさせることのないタイミングを選んで、さらに巣に捕食者を誘引することのないように注意しながら慎重に行った。使用したカスミ網のサイズ、調査地環境等については、これまでとほぼ同様である（詳しくは河原・川路 2011 参照）。

繁殖鳥モニタリング調査については、羊ヶ丘実験林の 6 林班と 8 林班内に 1 箇所ずつ設けた固定調査地に、それぞれカスミ網（HTX、30mm メッシュ×12m）を 5 枚ずつ張り、5 月末から 8 月中旬までの期間を 10 日間ずつ 8 つの期に分け、各期で 1 回ずつ合計 8 回の調査を行った。調査は、日の出時刻もしくは午前 4 時のどちらか遅い方の時間に開始して 6 時間の間、網を開き、約 30 分の間隔で見回りを行った。捕獲した鳥類には、環境省標識調査用の金属製番号付き足環を装着したのち、捕獲時間、網番号を記載したのち、性、齢を判別、自然翼長、最大翼長および体重を測定、記録した。また脂肪量、抱卵斑の有無、総排泄腔突出具合、換羽状況などの観察、記録を行ったのち、すみやかに放鳥した。これらは、すべて山階鳥類研究所保全研究室が作成した繁殖鳥モニタリング調査マニュアル（第 1 版）に従ったものである。

### [結果と考察]

#### 1. 平成 26 年度調査

平成 26 年度は、合わせて 39 種 1,552 羽（新放鳥 1,561 羽、再捕獲 129 羽）を捕獲、放鳥した（表 1）。1 日あたりの放鳥数は 28.3 羽であった。

もっとも放鳥数が多かったのは、メジロで 358 羽（全体の 21.1%、新放鳥 351 羽、再放鳥 7 羽、以下そのように表記）であり、ついでアオジ 349 羽（20.6%、319 羽、30 羽）、ヤブサメ 190 羽（11.2%、144 羽、46 羽）、ルリビタキ 180 羽（10.6%、170 羽、10 羽）、センダイムシクイ 109 羽（6.4%、105 羽、4 羽）の順であった。例年、放鳥数が多かったのはアオジであったが、今年度は初めてメジロの放鳥数がアオジのそれを上回った。これは、通常のアオジに見られ

る秋季渡り最盛期である 10 月初旬から中旬にかけて調査を行ったものの、100 羽以上を放鳥した日がわずか 1 日のみで、そのほかの日はそれほど捕獲数が伸びなかったことによる。その原因は不明である。それに比べて、メジロは 9 月中旬から 10 月下旬にかけてほぼコンスタントに捕獲されたことから、総捕獲数が伸び、昨年度の約 4 倍もの数になった。この原因についても不明である。そのほかの鳥種については、昨年比較的多く捕獲されていたヤブサメは昨年の約 7 割、キビタキは約 6 割、クロツグミは約 4 割と昨年度に比べてかなり減少した。一方、ルリビタキとセンダイムシクイは昨年度の 1.7 倍となっている。ルリビタキについては、昨年度がかなり少なかったこともあるが、センダイムシクイは後述するように、巢内ヒナへのバンディングが多かったことと、繁殖鳥モニタリング調査において幼鳥の群れが捕獲されたことが大きい。

春季の渡りについては、例年通り 4 月下旬にルリビタキの捕獲数が増える傾向が認められたが、それでもとくに大きなピークは見られなかった。

繁殖期における巢内ヒナへのバンディングでは、営巣を確認し、繁殖経過をモニタリングしたセンダイムシクイ 8 巢（巢内ヒナ 48 羽）、アオジ 3 巢（同 14 羽）、ヤブサメ 2 巢（同 10 羽）、コルリ 1 巢（同 6 羽）で合計 78 羽のヒナに標識を付した。さらにセンダイムシクイの巢に托卵し、巢内でふ化したのち仮親に育てられていたツツドリの子 1 羽にも標識した。これらの巢内ヒナへのバンディングは、確実に羊ヶ丘実験林で生まれた個体に標識付けをすることで、のちに回収された場合、渡り途中の個体を捕獲しバンディングしたものに比べて、寿命、起始点からの移動、帰還率等をより正確に判断できることが期待される。

秋季の渡りでは、1 日に 100 羽以上新放鳥した日が、わずかに 10 月 6 日の 1 日だけであった。また、8 月中旬にはすでにセンダイムシクイ、エゾムシクイの渡り個体群の小さなピークが見られたほか、8 月下旬にはヤブサメ、キビタキ、メジロが多くなり、次いで 9 月以降にクロツグミ、アオジのそれぞれピークが続くといった例年通りのパターンが見られた。そのほかメジロの渡りがだらだらと長期間にわたって続いたことが今年度の秋季渡りの一つの特徴と言える。

標識鳥の回収については、リピート (Rp)、羊ヶ丘実験林で放鳥されたあと 6 ヶ月以内に同地で再捕獲された場合が 98 羽と最も多く、リターン (Rt)、羊ヶ丘実験林で放鳥されたあと 6 ヶ月以上経過して同地で再捕獲された場合が 31 羽であった。リカバリー (Rc)、羊ヶ丘実験林もしくは 5km 以上離れた他所で放鳥された個体が 5km 以上離れた別の場所もしくは羊ヶ丘実験林で再捕獲された場合) はまったく

なかった。

リターン (Rt) 記録は、通常の野外観察では個体識別の困難な野生鳥類の寿命を知るうえで貴重なデータとなる。新放鳥後約 2 年以上経過して、平成 26 年度内に再度羊ヶ丘実験林で回収されたものは 8 例あり、それらを表 2 に示した。そのうち、キビタキ (オス)、クロジ (メス)、オオカゲラ (オス) については、今回再捕獲された記録が同種 (同性) における羊ヶ丘実験林での最長寿命記録となった。

平成 25 年度から開始した繁殖鳥モニタリング調査では、21 種 200 個体が調査期間中に新放鳥もしくはリターン (Rt) 回収された (表 3)。また調査期間中にリピート (Rp) 回収されたのは、5 種 38 羽であった。そのうち、これまで実験林内で巣を確認していないクロジ、オオムシクイは今年度も繁殖期間中に捕獲されたが、新たにシマセンニュウのオス成鳥が捕まった (図 1)。クロジは、今回の調査期間中にオス成鳥 1 羽、メス成鳥 1 羽および性別不明の幼鳥 6 羽が捕獲された (表 3)。そのうち 5 月 31 日に捕獲されたオスは、完全な成鳥の羽衣を示しており、顕著な総排泄腔の突出が見られたが、抱卵斑は認められなかった。メスは、7 月 20 日に捕獲されたが、明確ではあるものの、少し閉じかけた抱卵斑 (指標 4) が認められた。幼鳥は 8 月 2 日に 5 羽、8 月 10 日に 1 羽が捕まったが、いずれもまだ幼羽が全身に残っている状態であった。これらのことから、クロジは実験林内で繁殖している可能性が高いと思われる。

オオムシクイは 6 月 14 日、15 日および 21 日に 1 羽ずつの計 3 羽を捕獲したが、総排泄腔の顕著な突出もしくは抱卵斑は見られず、鎖骨間および腹腔に脂肪の蓄積が認められた。このことから本種については、今回もおそらく、まだ渡り途中での個体を捕獲したものと思われた。またシマセンニュウは 6 月 21 日に捕獲し、顕著な総排泄腔の突出が認められたことから、オス成鳥と判断したが、鎖骨間および腹腔には若干の脂肪蓄積を認めた。捕獲されたのがわずか 1 羽であったこと、これまで春秋の渡り期間中には時折



図 1 繁殖鳥モニタリング期間中に捕獲されたシマセンニュウ (オス成鳥、2015 年 6 月 21 日)

り捕獲されたことはあるものの、繁殖期間中に羊ヶ丘実験林内で本種成鳥の観察、捕獲もしくはさえずりなどの確認がまったくないこと、本種の本来の繁殖環境（草原など）とは実験林内の環境はかなり異なることなどから、今回捕獲された個体は、渡りが大幅に遅れ、羊ヶ丘実験林を一時的に通過したものと思われた。

## 2. 平成27年度調査

平成27年度は、合わせて48種1,552羽（新放鳥1,416羽、再捕獲136羽）を捕獲、放鳥した（表4）。1日あたりの放鳥数は24,6羽であった。

もともと放鳥数が多かったのは、アオジで362羽（全体の23.3%、新放鳥342羽、再放鳥20羽、以下そのように表記）であり、ついでヤブサメ215羽（13.9%、166羽、49羽）、ルリビタキ194羽（12.5%、182羽、12羽）、クロジ140羽（9.0%、124羽、16羽）、クロツグミ108羽（7.0%、104羽、4羽）の順であった。上位のアオジ、ヤブサメおよびルリビタキについては、26年度とほぼ同じ捕獲数であったが、26年度に300羽以上もの捕獲があったメジロは、27年度には72羽と大きく減少した。また、26年度は100羽に満たなかったクロジの捕獲数が約1.5倍に増加したのも特徴的である。一方、26年度に100羽以上もの捕獲があったセンダイムシクイは、27年度にはわずか30羽不足と大幅に減少した。これら特定種の捕獲数の年変動については、原因はわからないが、羊ヶ丘実験林のように、毎年ほぼ同じ調査日数で、網の設置枚数も同じ条件で調査していることを考慮すると、各種のその年による繁殖状況を反映しているのかもしれない。

春季における渡りは、例年通りルリビタキについてのみ4月下旬から5月初旬にかけて小さなピークが見られている。

繁殖期における巣内ヒナへのバンディングでは、営巣を確認し、繁殖経過をモニタリングしたアオジ6巣（巣内ヒナ26羽）、センダイムシクイ2巣、（同13羽）、ヤブサメ2巣（同12羽）、コルリ1巣（同4羽）で合計55羽のヒナに標識を付した。さらにセンダイムシクイの巣に托卵し、巣内でふ化したのち仮親に育てられていたツツドリヒナ2羽にも標識した。

秋季の渡りでは、1日に100羽以上新放鳥した日が、わずかに10月11日の1日だけであった。また、8月下旬～9月初旬にはヤブサメ、キビタキが多く、10月中旬にアオジ、クロツグミ、ウグイス、クロジのそれぞれピークが見られたことから、メジロの捕獲数が非常に少ないことを除くと、例年とほぼ同様の渡り傾向と思われる。比較的珍しい捕獲放鳥例として、10月30日に3林班の網場でヤマヒバリ（性



図2 ヤマヒバリ（性不明、幼鳥、2015年10月30日）

不明、幼鳥）1羽を捕獲した（図2）。羊ヶ丘実験林では1997年11月16日にもヤマヒバリ1羽（性不明、幼鳥）が捕獲されており（河原孝行私信）、今回は2羽目である。

標識鳥の回収に関しては、Rp（リピート個体）が99羽、Rt（リターン個体）が37羽であり、Rc（リカバリー個体）はまったくなかった。新放鳥後約2年以上経過して、平成26年度内に再度羊ヶ丘実験林で回収されたものは7例あり、それらを表5に示した。そのうち、ヤマガラ（オス）については、今回再捕獲された記録が同種（同性）における羊ヶ丘実験林での最長寿記録となった。

繁殖鳥モニタリング調査では、22種112個体が調査期間中に新放鳥もしくはリターン（Rt）回収された（表6）。また調査期間中にリピート（Rp）回収されたのは、6種23羽であった。そのうち、これまで実験林内で巣を確認していないクロジ、オオムシクイは27年度も繁殖期間中に捕獲され、そのほかにエゾムシクイとビンズイが捕獲された（図3）。クロジは、今回の調査期間中にオス成鳥3羽、メス成鳥1羽および性別不明の幼鳥3羽が新たに捕獲され、春季の渡り期である5月5日に隣接する網場で捕獲、放鳥されたメス成鳥1羽が6月13日に再捕獲された（表6）。そのうち6月1日に捕獲されたオス2羽は、頭部や背にわずかに褐色の羽毛が混じることから第一回夏羽個体と思われたが、いずれも顕著な総排泄腔が見られた。そのうち1羽の腹部中央では綿羽がまばらになっており、すでに抱卵斑を示している（指標2）と判断された。また同じ6月1日に捕獲されたメス成鳥では、腹部にわずかながら綿羽は残るものの、表面に血管がよく分布する状態の抱卵斑（指標4）を認めた。また6月13日に再捕獲されたメス成鳥は、綿羽のまったく見られない明確な抱卵斑（指標5）を有していた。そのほか、7月4日にオス第一回夏羽個体が1羽捕まったが、顕著な総排泄腔の突出は見られたものの、抱卵斑は認められなかった。また幼鳥（性不明）が7月12日に3羽捕まり、いずれもまだ幼羽が全身に残っている状態であ

った。

オオムシクイは6月1日と13日に2羽ずつの計4羽を捕獲したが、総排泄腔の顕著な突出もしくは抱卵斑は見られず、鎖骨間および腹膜に脂肪の蓄積が認められた。このことから本種については、今回もまだ渡り途中での個体を捕獲したものと思われた。またエゾムシクイは、まず7月26日に2羽を捕獲したが、いずれも成鳥（性不明）で、抱卵斑や総排泄腔突出は認められず、1羽は内側から6枚の初列風切羽を換羽中であり、もう1羽も内側6枚はすでに換羽が終了しており、続く7～9枚目が換羽中で、最外側の1枚のみが旧羽という状態であった。また、8月9日にも2羽の成鳥が捕まったが、いずれも換羽は終了しており、これらは早期に繁殖を終了し、南方へ渡る途中の個体が通過したものと思われた。ビンズイは8月2日に幼鳥（性不明）が1羽捕まったが、実験林内での繁殖期における成鳥の観察例等がないことを考えると、ほかの場所で生まれた個体が、一時的に通過したものと考えられる。

#### [文献]

- 上沖正欣・川路則友・河原孝行. 2014. ヤブサメ *Urosphena squameiceps* における繁殖地への帰還率. 日本鳥類標識協会誌 26(2): 62-68.
- 河原孝行・川路則友 (2011) III. 平成 22 年度羊ヶ丘実験林鳥類標識調査結果. 平成 23 年版森林総合研究所北海道支所年報:24-30
- 川路則友 (1996) 春の渡り期における林床性鳥類捕獲数の日周変化. 日本鳥学会誌 45(3): 175-182
- 川路則友 (2015) II. 平成 25 年度羊ヶ丘実験林鳥類標識調査結果. 平成 26 年版森林総合研究所北海道支所年報:3-9
- 川路則友・河原孝行 (2013) 羊ヶ丘の鳥はどこから来て、どこへ行く? 北の森だより 10: 4-8
- 川路則友・広川淳子 (1998) ヤブサメにおける Complete post-juvenile moult について. 日本鳥類標識協会誌 13(1): 1-7
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会. 三田.

表1 平成26年度日別放鳥一覧

調査月日	4/21	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/24	5/31	6/5	6/10	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/21							
天候	C	F	F	F	F	F	C	C	C	F	F	C	F	C	C	C/R	C/R	C	C	C	C							
新放鳥数	11	7	29	51	43	37	10	29	12	30	21	7	17	5	8	7	19	19	6	11	17							
再捕獲数(R)	0	0	3	0	6	8	2	5	5	8	4	9	5	0	0	0	0	8	6	0	13							
種名／種類数／放鳥種別	4		4		11		10		11		8		6		7		7		9		9							
	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N						
1 ツツドリ																1												
2 ヨゲラ					1													1										
3 オオアカゲラ																			1									
4 アカゲラ			1					3																				
5 キクイタダキ																												
6 ハシブトガラ						1																						
7 コガラ						1					2																	
8 ヤマガラ				2															1									
9 ヒガラ					2																							
10 シジュウカラ			1	1				1	2	2	1								10									
11 ヒヨドリ																												
12 ウグイス	1	3	3	1				4	1		4	3									1							
13 ヤブサメ		2	1	3	5	3	3	2	1		1	4	5	1	2	5	1	2	7		4	2	4	2	5	6	3	
14 エナガ																												
15 オオムシクイ																			1								1	
16 エゾムシクイ																			1								1	
17 センダイムシクイ											1			1		7	7	19	1	3		1			1	7		
18 メジロ					1		1	2	1	1	2	1		1	1													
19 シマセンニュウ																											1	
20 ゴジュウカラ			2	1	2																							
21 キバシリ					1																							
22 ミソサザイ	2	1	1			1																						
23 トラツグミ								1																				
24 クロツグミ					1			2	2	1	1	2	2	2	1				1								1	
25 マミチャジナイ																												
26 シロハラ			1		4																							
27 アカハラ																												
28 コマドリ				1							1																	
29 ノゴマ					1																							
30 コルリ														1													6	
31 ルリビタキ	7	1	11	31	2	28	3	29		2	2	13	2	5	1	11	9											
32 キビタキ																1											1	
33 オオルリ															2													
34 カウラヒワ																2												
35 マヒワ	1																											
36 シメ			2	1																								
37 カシラダカ																												
38 アオジ			1	3	2	3	2	2		2	1	2	1		1	1	2	2	5					2	1		5	4
39 クロジ			2	6	1	2				1	4	2	1	4	1	2	1											

種の配列は、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）によった。天候：F（晴れ）、C（曇り）、R（雨）。放鳥種別：R（再捕獲）、N（新放鳥）。

表1 平成26年度日別放鳥一覧

調査月日	6/22	6/26	6/30	7/3	7/4	7/12	7/20	8/1	8/2	8/10	8/15	8/16	8/22	8/30	8/31	9/6	9/7	9/8	9/9	9/13	9/14			
天候	C	F	C/F	C	F	C	C	C	F	F/C	C	C	C	F	F	F/C	C	C/F	F	F	F			
新放鳥数	4	5	10	5	5	15	56	5	22	30	20	24	16	16	20	43	24	24	2	47	45			
再捕獲数(R)	0	0	3	0	0	6	6	0	2	2	3	0	0	0	2	0	0	1	0	2	0			
種名／種類数／放鳥種別	1	1	5	1	1	7	13	1	8	9	8	6	7	4	5	8	5	6	1	7	9			
	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N	R N		
1 ツツドリ																								
2 ヨゲラ			1				1																	
3 オオアカゲラ																								
4 アカゲラ							1																	
5 キクイタダキ																								
6 ハシブトガラ						1	7		2	1												1		
7 コガラ							1																	
8 ヤマガラ							2									1								
9 ヒガラ																								
10 シジュウカラ							5			1	1	2									2			
11 ヒヨドリ																						1		
12 ウグイス						1																		
13 ヤブサメ			2	3		6	4	4	1	5	1	6	3		1	1	9	7	18	3	7	1	7	9
14 エナガ							2																	
15 オオムシクイ																								
16 エゾムシクイ											4				3		1							
17 センダイムシクイ		5	5		5	4	25		1	1	13	1	1											
18 メジロ			1				3				2	2	7	1	4	1	6	11	8	6	2	17	20	
19 シマセンニュウ																								
20 ゴジュウカラ																								
21 キバシリ																								
22 ミソサザイ																								
23 トラツグミ																								1
24 クロツグミ						1			2		3	2	2			1		1		6		1		1
25 マミチャジナイ																								
26 シロハラ																								
27 アカハラ														1										
28 コマドリ																								
29 ノゴマ																								
30 コルリ									1	1	1		2	2	1	4		1						
31 ルリビタキ																								
32 キビタキ						2	3		2	5	2	8	11	6	1	6	3	4	1	7		1	9	2
33 オオルリ																								
34 カウラヒワ																								
35 マヒワ																								
36 シメ																								
37 カシラダカ																								
38 アオジ	4		1	5		2	2	4		4	1	3				3	3	2			5		4	
39 クロジ							1		5	1	1					2	6				1		6	

種の配列は、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）によった。天候：F（晴れ）、C（曇り）、R（雨）。放鳥種別：R（再捕獲）、N（新放鳥）。

表1 平成26年度日別放鳥一覧

調査月日	9/15	9/19	9/23	9/27	9/28	9/29	10/4	10/5	10/6	10/11	10/13	10/18	10/19	10/25	11/1	11/2	11/7	11/8	60日間									
天候	F	F/R	F	F	C	F	C/R	F	C	C	C	F	F	C	C	C/R	C	F										
新放鳥数	26	30	55	44	30	71	45	58	148	23	66	27	37	24	36	2	8	4	1,568羽									
再捕獲数(R)	3	3	0	2	1	2	1	2	1	1	3	1	0	0	0	0	0	0	129羽									
種名／種類数／放鳥種別	8	7	8	7	6	7	6	9	8	6	7	8	6	5	10	2	3	4	39種									
	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R+N					
1 ツツドリ																							0	1	1			
2 ヨゲラ																							2	2	4			
3 オオアカゲラ																							1	0	1			
4 アカゲラ									1														0	6	6			
5 キクイタダキ															1								0	1	1			
6 ハシブトガラ									1						1								1	14	15			
7 コガラ															1								1	4	5			
8 ヤマガラ					1														1				2	7	9			
9 ヒガラ															1								0	3	3			
10 シジュウカラ		1			1				5				1	1		1							1	38	39			
11 ヒヨドリ																							0	1	1			
12 ウグイス					2		4		4	1	6	3	2		3		1						1	48	49			
13 ヤブサメ	1	3		5	1			1	1	1													46	144	190			
14 エナガ																							0	2	2			
15 オオムシクイ		1																					0	4	4			
16 エゾムシクイ																							0	8	8			
17 センダイムシクイ																							4	105	109			
18 メジロ		13	2	16		28	14	24	31	9	13	13	8	2	29	14	16	7	16			1	7	351	358			
19 シマセンニュウ																							0	1	1			
20 ゴジュウカラ																							0	5	5			
21 キバシリ																2							0	3	3			
22 ミソサザイ															1			3	1				2	8	10			
23 トラツグミ																							0	2	2			
24 クロツグミ		2		1		1	7	1	2	15	4	5	5	7	1								6	80	86			
25 マミチャジナイ										1													0	1	1			
26 シロハラ												1	1	3	11								0	21	21			
27 アカハラ													1										0	2	2			
28 コマドリ										1		1	3										0	7	7			
29 ノゴマ				3		1	2																0	7	7			
30 コルリ																							0	23	23			
31 ルリビタキ													2		4	4	1	6	1	4	1	10	170	180				
32 キビタキ	1	1	1	1		1		3	3	2	2											7	83	90				
33 オオルリ																							0	2	2			
34 カウラヒワ																							0	2	2			
35 マヒワ																							0	1	1			
36 シメ																							0	3	3			
37 カシラダカ																6			1				0	7	7			
38 アオジ		4		1		16	1	15		1	1	26	1	12	2	23	1	121		1	1	23		12	2	30	319	349
39 クロジ	1	1		3		2		4		1	1	4	6	5	5	1	1	2	1	1			8	82	90			

種の配列は、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）によった。天候：F（晴れ）、C（曇り）、R（雨）。放鳥種別：R（再捕獲）、N（新放鳥）。

種名	足環番号	性	初放鳥日	再捕獲日	経過年月	平成25年度までの同種(同性)における最長経過年月(羊ヶ丘)
アオジ	02Y74625	オス	2008/9/29	2014/6/22	5年9月	7年7月
キビタキ	01F29220	オス	2009/9/6	2014/8/15	4年11月*	4年1月
コゲラ	03F39539	メス	2009/10/16	2014/4/28	4年6月	9年0月
クロジ	03F52059	メス	2010/10/11	2014/10/18	4年0月*	-
オオアカゲラ	05C76449	オス	2010/10/24	2014/6/15	3年8月*	-
ヤブサメ	01B65358	オス	2011/9/25	2014/6/15	2年9月	4年0月
ヤブサメ	01B65317	オス	2011/9/11	2014/5/5	2年8月	4年0月
アオジ	2AF84617	オス	2012/8/17	2014/10/5	2年2月	7年7月

\*平成26年度のものが最長となった記録

表3 平成26年度における繁殖鳥モニタリング調査の捕獲結果

種名	オス成鳥		メス成鳥		不明成鳥		幼鳥		合計	
	N+Rt	Rp	N+Rt	Rp	N	Rp	N	Rp	N+Rt	Rp
1 ヤブサメ(*)	14	20	12	5		1	8		34	26
2 センダイムシクイ(*)	7	2	7		4		37	1	55	3
3 アオジ(*)	11	4	5	3			6		22	7
4 シジュウカラ(*)	1		1				14		16	0
5 キビタキ(*)	1		3				9		13	0
6 ハシブトガラ(*)							10	1	10	1
7 クロジ	1		1				6		8	0
8 メジロ(*)	1		1		1		4		7	0
9 クロツグミ(*)	2		2	1			1		5	1
10 コルリ(*)	3						2		5	0
11 エゾムシクイ					2		2		4	0
12 ヤマガラ(*)	2						2		4	0
13 オオムシクイ					3				3	0
14 ウグイス(*)	1		2						3	0
15 エナガ(*)					1		1		2	0
16 カワラヒワ(*)	1		1						2	0
17 コゲラ(*)	2						1		3	0
18 アカゲラ(*)							1		1	0
19 コガラ(*)							1		1	0
20 シマセンニュウ	1								1	0
21 オオアカゲラ(*)	1								1	0

N: 新放鳥(Newly Banded)、Rt: リターン(Return)、Rp: リピート(Repeat)

\* 実験林内で活動中の巣を発見したことがある種

表4 平成27年度日別放鳥一覧

調査月日	4/20	4/25	4/26	4/27	4/29	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/9	5/11	6/1	6/3	6/4	6/6	6/7	6/10	6/13	6/15	6/19	6/20	6/21	6/22	6/25	7/4	7/5	7/12	7/17	7/26		
天候	C	F	F	F	F	F	C	C	C	F	C	F	F	C	C	F	F	C	C	C	F	C	F	F	C	C	F	F	C			
新放鳥数	5	64	33	15	43	19	36	21	23	18	17	11	18	6	5	6	6	6	12	6	1	7	8	4	6	13	2	14	2	9		
再捕獲数(R)	0	2	3	3	4	5	4	5	7	12	9	6	3	0	0	0	0	0	4	0	0	0	7	0	0	5	0	4	0	3		
種名/種類数/放鳥種別	2	13	6	4	6	7	10	7	9	7	10	6	9	1	1	1	1	1	6	1	1	1	5	1	2	10	1	10	1	5		
	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N
1 ツツドリ																																
2 コゲラ																																
3 オオアカゲラ																																
4 アカゲラ			1																													
5 カケス																																
6 キクイタダキ																																
7 ハシブトガラ			2																													
8 コガラ																																
9 ヤマガラ																																
10 ヒガラ																																
11 シジュウカラ																																
12 ヒヨドリ																																
13 ウグイス																																
14 ヤブサメ																																
15 エナガ																																
16 オオムシクイ																																
17 エゾムシクイ																																
18 センダイムシクイ																																
19 メジロ																																
20 エゾセンニュウ																																
21 ゴジュウカラ																																
22 キバシリ																																
23 ミソサザイ																																
24 トラツグミ																																
25 クロツグミ																																
26 マミチャジナイ																																
27 シロハラ																																
28 アカハラ																																
29 ツグミ																																
30 コマドリ																																
31 ノゴマ																																
32 コルリ																																
33 ルリビタキ																																
34 コサメビタキ																																
35 キビタキ																																
36 ムギマキ																																
37 オオルリ																																
38 ヤマヒバリ																																
39 ビンズイ																																
40 カワラヒワ																																
41 マヒワ																																
42 ベニマシコ																																
43 ウソ																																
44 シメ																																
45 カシラダカ																																
46 ミヤマホオジロ																																
47 アオジ																																
48 クロジ																																

種の配列は、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）によった。天候：F（晴れ）、C（曇り）、R（雨）。放鳥種別：R（再捕獲）、N（新放鳥）。



表4 平成27年度日別放鳥一覧

調査月日	11/14	11/16	63日間			
天候	C	F				
新放鳥数	1	3	1416羽			
再捕獲数(R)	1	0	136羽			
種名／種類数／放鳥種別	2		3		48種	
	R	N	R	N	R	N
					R+N	
1 ツツドリ			0	2	2	2
2 コゲラ			0	3	3	3
3 オオアカゲラ			0	1	1	1
4 アカゲラ			1	5	6	6
5 カケス			0	1	1	1
6 キクイタダキ			0	6	6	6
7 ハシブトガラ		1	1	16	17	17
8 コガラ	1		4	9	13	13
9 ヤマガラ			6	5	11	11
10 ヒガラ			1	9	10	10
11 シジュウカラ		1	1	25	26	26
12 ヒヨドリ			1	1	2	2
13 ウグイス			6	92	98	98
14 ヤブサメ			49	166	215	215
15 エナガ			0	14	14	14
16 オオムシクイ			0	6	6	6
17 エゾムシクイ			0	7	7	7
18 センダイムシクイ			2	27	29	29
19 メジロ			3	69	72	72
20 エゾセンニュウ			0	2	2	2
21 ゴジュウカラ			0	3	3	3
22 キバシリ			1	1	2	2
23 ミソサザイ		1	0	7	7	7
24 トラツグミ			0	1	1	1
25 クロツグミ			4	104	108	108
26 マミチャジナイ			0	2	2	2
27 シロハラ			0	21	21	21
28 アカハラ			0	4	4	4
29 ツグミ			0	6	6	6
30 コマドリ			0	7	7	7
31 ノゴマ			0	5	5	5
32 コルリ			1	23	24	24
33 ルリビタキ			12	182	194	194
34 コサメビタキ			0	1	1	1
35 キビタキ			7	82	89	89
36 ムギマキ			0	1	1	1
37 オオルリ			0	2	2	2
38 ヤマヒバリ			0	1	1	1
39 ビンズイ			0	2	2	2
40 カワラヒワ			0	1	1	1
41 マヒワ			0	1	1	1
42 ベニマシコ		1	0	20	20	20
43 ウソ			0	2	2	2
44 シメ			0	1	1	1
45 カシラダカ			0	2	2	2
46 ミヤマホオジロ			0	2	2	2
47 アオジ			20	342	362	362
48 クロジ			16	124	140	140

種の配列は、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）によった。天候：F（晴れ）、C（曇り）、R（雨）。放鳥種別：R（再捕獲）、N（新放鳥）。

種名	足環番号	性	初放鳥日	再捕獲日	経過年月	平成26年度までの同種(同性)における最長経過年月(羊ヶ丘)
ヤマガラ	2AD41001	オス	2010/11/7	2015/7/12	4年8月*	-
アオジ	2AD41207	オス	2011/9/21	2015/7/4	3年10月	7年7月
ヤブサメ	01B65317	オス	2011/9/11	2015/5/6	3年8月	4年0月
ヤブサメ	01B65358	オス	2011/9/25	2015/4/29	3年7月	4年0月
アオジ	2AD41283	メス	2011/9/29	2015/4/25	3年7月	8年7月
キビタキ	01G05616	メス	2013/6/9	2015/9/27	2年3月	4年0月
アオジ	2AF10489	メス	2013/7/21	2015/10/10	2年3月	8年7月
*平成27年度のものが最長となった記録						

表6 平成27年度における繁殖鳥モニタリング調査の捕獲結果

2015	オス成鳥		メス成鳥		不明成鳥		幼鳥		合計	
	N+Rt	Rp	N+Rt	Rp	N+Rt	Rp	N	Rp	N+Rt	Rp
1 ヤブサメ(*)	10	11	9	2	2	3	12		33	16
2 キビタキ(*)	3		4	1			10		17	1
3 センダイムシクイ(*)	2	1	5	1	1		1		9	2
4 クロジ	3		1	1			3		7	1
5 アオジ(*)	1		4	1			1	1	6	2
6 コルリ(*)	5		1				1		7	0
7 メジロ(*)	3		2	1					5	1
8 ウグイス(*)	1		1				3		5	0
9 クロツグミ(*)	1		1				2		4	0
10 エゾムシクイ					4				4	0
11 オオムシクイ					4				4	0
12 シジュウカラ(*)	1								1	0
13 ハシブトガラ(*)			1						1	0
14 ヤマガラ(*)	1								1	0
15 コゲラ(*)	1								1	0
16 アカゲラ(*)			1						1	0
17 カワラヒワ(*)			1						1	0
18 コサメビタキ(*)							1		1	0
19 ゴジュウカラ(*)			1						1	0
20 ヒガラ(*)			1						1	0
21 ヒヨドリ(*)	1								1	0
22 ビンズイ							1		1	0

N: 新放鳥(Newly Banded)、Rt: リターン(Return)、Rp: リピート(Repeat)

\* 実験林内で活動中の巣を発見したことがある種

### Ⅲ. 産学官連携報告

(無し)

### Ⅳ. 広報活動

名称：平成27年度森林総合研究所（北海道支所・林木育種センター北海道育種場・森林整備センター札幌水源林整備事務所）一般公開

日時：平成27年5月16日（土） 9:30～15:30

参加者：174名

主催：北海道支所・林木育種センター北海道育種場・森林整備センター札幌水源林整備事務所

概要：一般の方が普段は立ち入れない実験林内を案内したエコツアーや、普段利用していただいている樹木園内のガイドでは、参加者から多くの質問を受けました。

北海道育種場は「挿し木体験コーナー」を担当し、多数の参加をいただきました。



研究紹介（標本館）



実験林ツアー



挿し木体験コーナー

名称：第1回森林講座（通算第66回）

日時：平成27年5月16日（土） 11:00～11:40

場所：北海道支所2階 大会議室

演題（演者）：「さわって学ぼう、エゾシカ講座」（松浦友紀子）

参加者：約20名

概要：今、話題となっているエゾシカについて、骨格標本や毛皮に触れながら、生態等について分かりやすく解説しました。



森林講座風景

名称：平成27年度森林総合研究所 北海道地域研究成果発表会

日時：平成27年10月15日（木） 13:30～16:00

参加者：97名

場所：札幌市男女共同参画センター 3階ホール（札幌エルプラザ内）

テーマ：「樹木に迫る—成長・繁殖・変化—」

発表1：「樹木に肥料を撒くと成長は良くなるか？」

発表者：相澤州平

[要旨] 1950年代から1970年代にかけて、森林に肥料を撒いて収穫量を増やす目的で林地肥培研究が盛んに行われていました。森林総合研究所北海道支所（当時は林業試験場北海道支場）でも林木の成長や養分循環に対する施肥の効果を調べるため、1973年に林地肥培モデル実験林を設定し、現在も施肥を継続しています。この試験地でわかってきたことを紹介します。

発表2：「マスティング（一斉開花）の謎と意義」

発表者：韓慶民

[要旨] マスティングとは、何年かの間隔で多数の植物個体が一斉に開花する現象です。

「なぜマスティングが起こるのか?」、言い換えれば「マスティングにはどんな有利性があるのか?」については、進化的な視点からいろいろな仮説が提唱され、実証されてきました。一方、「どのようにしてマスティングが生じるのか?」という現象のメカニズムについては、樹体内の貯蔵資源（炭水化物）の蓄積と枯渇のバランスが原因とするモデル（資源収支モデル）が広く受け入れられていましたが、その正否は不明のままでした。そこで私たちはブナを用いて、この問題に挑みました。

発表3：「花が咲かねば苗木ができない—樹木の着花をコントロールする—」

発表者：福田陽子

[要旨] 樹木の着花（着果）は年によって大きく変動することが多く、林業上重要なカラマツやグイマツ、トドマツ、アカエゾマツにおいても顕著な年変動があります。造林のニーズに対応して安定的に種苗生産をするためには、種子の豊凶を気象要因から予測する手法や人工的に着花を促進する方法を確立し、種子生産性を向上させる必要があります。

発表4：「空から森林を測る」

発表者：古家直行

[要旨] 広域に広がる森林を効率よく観測（モニタリング）するために、「空から森林を測ること」が必要となります。空から、そして宇宙からと、観測は様々な方法を利用して実施されています。ランドサットという衛星は約700 km離れた宇宙から、代を変えながら1970年代から観測を継続している一方、より詳細な30cmの解像度で地上を観測する衛星もあります。また、国内では航空機による空中写真撮影が第二次世界大戦以降継続的に実施されています。森林のように長期間の変化を捉える必要がある時、このデータの継続性は非常に重要です。



開会挨拶（牧野支所長）



発表1（相澤）



発表2（韓）



発表3（福田）



発表4（古家）



閉会挨拶（今井場長）

名称：公開シンポジウム「前進する北の林業—先進機械による伐採・造林一貫システム—」

日時：平成28年2月16日（火） 10:00～17:00

場所：札幌コンベンションセンター 中ホール

参加者：約250名

概要：多くの人工林が主伐期を迎え、伐採後の確実な再生林が全国的にも急務となっています。そのために各地で低コスト化を目指した研究や取組が行われていますが、造林樹種や自然環境が特異な北海道では、それに見合った技術が必要です。

このシンポジウムでは、農林水産省の研究費で北海道支所と下川町が共同開発した、林内走行型機械を用いた短幹集材（CLT）、クラッシャー地拵え（じごしらえ）、コンテナ苗の活用、低密度植栽等を組み合わせた伐採

・造林一貫システムについて、その具体的技術、コスト評価、および環境影響の三つの点から研究担当者が発表し、機械をフルに活用することが生産性やコストの点から有利であることが示されました。

また、機械化林業の先進地であるフィンランドとスウェーデンの研究者により、伐採作業や苗木生産・造林作業の機械化に関する興味深い講演が行われました。さらに、下川町や林野庁といった行政サイドからも、低コスト林業や伐採造林一貫作業の必要性や期待について講演していただきました。

発表者全員と司会者によるパネルディスカッションにおいては、技術を適用する上での制度的な問題や地域振興に対する林業の役割を含め広い角度から議論が行われました。

開会挨拶  
沢田理事長



基調講演  
Jori Uusitalo



基調講演  
Tomas Ersson



取組報告  
谷下川町長



取組報告  
堀首席研究企画官



成果報告  
宇都木チーム長



成果報告 上村室長



成果報告 倉本チーム長



パネルディスカッション



閉会挨拶 牧野支所長



## V. 平成27年度研究業績

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
佐々木尚三	2015.06	技術講座 羊ヶ丘の林業機械化技術ノート 第1回 林業機械化技術のトピックス	機械化林業、739:31-34
佐々木尚三	2015.07	技術講座 羊ヶ丘の林業機械化技術ノート 第2回 「CLT型」伐採作業システムの活用に向けて	機械化林業、740:31-34
佐々木尚三	2015.08	技術講座 羊ヶ丘の林業機械化技術ノート 第3回 今後の林業機械を考える	機械化林業、741:31-34
佐々木尚三	2015.12	技術講座 羊ヶ丘の林業機械化技術ノート 第4回 現場発の集材法・クローラカートについて	機械化林業、745:25-28
佐々木尚三	2016.01	わが国のCTLシステムの現状	森林利用学会誌、36(1):5-11
佐々木尚三	2016.01	プロジェクト研究「先進機械を活用した伐採・造林一貫システムによる低コスト人工林管理技術の開発」で分かってきたこと	機械化林業、746:29-34
NOGUCHI Shoji (野口正二)、SASAKI Shozo (佐々木尚三)、NEGISHI Junjiro (根岸淳二郎・北海道大学)、TANI Makoto (谷誠・京都大学)、Siti Aisha Shamusudin (マレーシア森林研究所)	2016.01	Effects of forest management on soil and water conservation in a tropical rain forest(熱帯雨林の水土保持に関する森林管理の影響)	Proceedings of the FRIM-JIRCAS Joint seminar on ecology and genetics of dipterocarp forest -Its role in sustainable forest management、7
山田健、佐々木尚三、古家直行、本田雅昭(ティンバーテック)、栗川二郎(ティンバーテック)、中根貴雄(フォテック)、小玉哲大(フォテック)、鬼武正行(モリトウ)	2016.03	育林作業機の精密誘導技術の開発	日本森林学会学術講演集、127:P242
山口浩和、山田健、佐々木尚三、宇都木玄、斎藤丈寛(下川町役場森林総合産業推進課)、上村巧、鈴木秀典、中澤昌彦	2016.03	地拵え作業におけるエクスカベーター搭載型林業用マルチャーの動力性能	日本森林学会学術講演要旨集、127:241
伊藤賢介	2016.02	森林昆虫研究領域	森林総合研究所百十年のあゆみ、71-75
山口岳広	2015.05	モミサルノコシカケを接種したトドマツ生立木における子実体の発生	日本菌学会大会講演要旨集、59:84
山口岳広、足立康成(石狩地域森林ふれあい推進センター)、新井田和彦(北海道森林管理局)	2015.10	非破壊的腐朽探査機器を用いた北海道国有林内のトドマツ高齢人工林における腐朽被害実態の把握	樹木医学会講演要旨集、20:33
山口岳広、足立康成(石狩地域森林ふれあい推進センター)、新井田和彦(北海道森林管理局)	2016.02	非破壊的腐朽探査機器を利用したトドマツ高齢人工林の腐朽被害実態把握ー北海道内の国有林における事例ー	北方森林研究、64:37-40
山口岳広	2016.03	林業機械による地がきで生じた隣接トドマツ立木の根系損傷ー機械走行による損傷との比較ー	日本森林学会大会学術講演集、127:164
山口岳広	2016.03	北海道南部のスギ人工林における腐朽被害調査事例	森林保護、341:2-5
ARAKI Masatake G(荒木眞岳)、KAJIMOTO Takuya(梶本卓也)、HAN Qingmin(韓慶民)、KAWASAKI Tatsuro(川崎達郎)、UTSUGI Hajime(宇都木玄)、GYOKUSEN Koichiro(玉泉幸一郎・九州大学)、CHIBA Yukihiko(千葉幸弘)	2015.04	Effect of stem radial growth on seasonal and spatial variations in stem CO2 efflux of Chamaecyparis obtusa (幹の肥大成長がヒノキの幹CO2フラックスにおける季節変動と垂直変動に与える影響)	Trees-Structure and Function、29(2):499-514
Yan-Shih Lin(Macquarie University)、Qingmin Han(韓慶民、54人中25番目)	2015.05	Optimal stomatal behaviour around the world (植生の最適な気孔応答)	Nature Climate Change、5(5):459-464

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
<b>Qingmin Han(韓慶民)</b> 、KABEYA Daisuke(壁谷大介)、INAGAKI Yoshiyuki(稲垣善之)、NOGUCHI Kyotaro(野口享太郎)	2015.08	Effect of seed production on nitrogen uptake and allocation in mature <i>Fagus crenata</i> trees (ブナの種子生産が窒素の吸収量とその配分に及ぼす影響)	第10回ブナ国際シンポジウム要旨集、77
KABEYA Daisuke (壁谷大介)、NOGUCHI Kyotaro (野口享太郎)、INAGAKI Yoshiyuki (稲垣善之)、 <b>Qingmin Han (韓慶民)</b>	2015.09	SEASONAL PATTERN OF RADIAL GROWTH IN <i>FAGUS CRENATA</i> DURING A NON-REPRODUCTION AND A REPRODUCTION YEAR(繁殖年・非繁殖年におけるブナの肥大成長の季節パターン)	10th IUFRO Beech Symposium、104
<b>韓慶民、原山尚徳、上村章、伊藤江利子、宇都木玄</b>	2015.11	挿しつけの深さがヤナギ初期生産に及ぼす影響	第64回北方森林学会大会講演要旨、64:P-28
KABEYA Daisuke (壁谷大介)、NOGUCHI Kyotaro (野口享太郎)、INAGAKI Yoshiyuki (稲垣善之)、 <b>Qingmin Han (韓慶民)</b>	2016.03	GROWTH PHENOLOGY OF <i>FAGUS CRENATA</i> IN A HEAVY MASTING YEAR.(豊作年におけるブナの成長フェノロジー)	日本生態学会大会講演要旨集、63:P2-115
野口享太郎、 <b>韓慶民</b> 、壁谷大介、稲垣善之、古澤仁美	2016.03	苗場山のブナ林における細根生産速度	日本森林学会大会学術講演集、127:280
佐竹暁子(九州大学)、 <b>韓慶民</b> 、沼田真也(首都大学東京)、市栄智明(高知大学)、谷尚樹(国際農林水産研究センター)	2016.03	一斉開花研究のフロンティア:気象と栄養シグナルに対して植物は遺伝子レベルでどのように応答しているのか?	日本生態学会大会大会講演要旨集、63:T17-1
<b>韓慶民</b> 、壁谷大介、佐竹暁子(九州大学)	2016.03	Flowering gene expression in masting <i>Fagus crenata</i> trees and related dynamics of nutrients in plants and soil (マasting樹種ブナの開花遺伝子発現量と体内及び土壌資源量動態の関係)	日本生態学会大会大会講演要旨集、63:P2-108
TAKAHASHI Masayoshi (高橋正義)、HOSODA Kazuo (細田和男)、NISHIZONO Tomohiro (西園朋広)、TAKAO Gen (鷹尾元)、SAITO Hideki (齋藤英樹)、 <b>ISHIBASHI Satoshi (石橋聡)</b> 、 <b>FURUYA Naoyuki (古家直行)</b> 、KODANI Eiji (小谷英司)	2015.08	Resources and growth of Japanese Larch ( <i>Larix kaempferi</i> ) in Japan(日本におけるニホンカラマツの資源と成長)	Proceeding of SFEM 2015、27-29
小杉陵太(北海道大学)、渋谷正人(北海道大学)、 <b>石橋聡</b>	2015.11	前生林の林分構造が異なる天然林の風害後60年間の林分動態	第64回北方森林学会大会研究発表要旨、64:O-04
<b>石橋聡</b>	2016.02	ミヤコザサ地域の広葉樹林における択伐施業による林分推移	北方森林研究、64:13-14
<b>石橋聡</b>	2016.03	更新補助作業のコスト	北方天然林の再生を目指して森林総合研究所第3期中期計画成果34(森林・林業再生-8)、14
<b>石橋聡</b>	2016.03	試験地について	北方天然林の再生を目指して森林総合研究所第3期中期計画成果34(森林・林業再生-8)、5
<b>石橋聡(石橋聡)</b>	2016.03	十勝岳泥流跡に成立した林分の長期推移	日本森林学会大会学術講演集、127:229(P2-002)
MATSUMOTO Mitsuo (松本光朗)、OKA Hiroyasu (岡裕泰)、TONOSAKI Mario (外崎真理雄)、TSUNETSUGU Yuko (恒次祐子)、KANOMATA Hidesato (鹿又秀聡)、 <b>SHIMASE Takuya (嶋瀬拓也)</b> 、MITSUDA Yasushi (光田靖・宮崎大学)、KAYO Chihiro (加用千裕・東京農工大学)	2015.03	The Best Mix of Mitigation Measures Against Climate Change in the Forestry Sector based on Future Predictions(将来予測から見た森林分野での温暖化緩和策のベストミックス)	Utilizing Forests under Climate Change, Forestry and Forest Products Research Institute, Japan (農林水産省平成26年度委託プロジェクト研究 気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のためのプロジェクト研究成果発表会講演集「地球温暖化の中で森林を活かす」森林総合研究所、p.41
<b>嶋瀬拓也</b>	2015.08	林業・木材産業の発展をめぐる二つの論点	林業経済68(5):6-7

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
<b>嶋瀬拓也</b>	2015.08	国内合板工業の構造変化とその要因—原料対策からの方向転換—	日本中小企業学会北海道支部会報告概要書、5:報告2
松本光朗、岡裕泰、鹿又秀聡、恒次祐子、 <b>嶋瀬拓也</b> 、外崎真理雄、光田靖(宮崎大学)、加用千裕(東京農工大学)	2015.08	将来予測からみた森林分野の地球温暖化緩和策—木材利用が重要—	森林総合研究所 平成27年版研究成果選集、38-39
<b>嶋瀬拓也</b>	2016.02	北海道における製材用素材の価格および需給の短期変動	北方森林研究、64:49-52
<b>嶋瀬拓也</b>	2016.03	製紙会社の成り立ちに関する国際比較	日本森林学会大会学術講演集、127:Pa-001
松本光朗、光田靖(宮崎大学)、外崎真理雄、鹿又秀聡、岡野通明、 <b>嶋瀬拓也</b> 、近藤洋史、田中邦宏	2016.03	統合モデルの開発と将来予測に基づく温暖化施策のベストミックスの提案	気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のためのプロジェクト—森林及び林業分野における温暖化対策—地球温暖化が森林及び林業分野に与える影響評価と適応技術の開発—(農林水産省農林水産技術会議事務局)、50-57
SAITOH Takashi(齊藤隆・北海道大学)、 <b>ISHIBASHI Yasuyuki(石橋靖幸)</b>	2015.07	Social organization and mating system (社会構造と配偶様式)	The Wild Mammals of Japan (松香堂書店)、151-152
大井徹(石川県立大学)、岡輝樹、大西尚樹、 <b>石橋靖幸</b> 、高橋裕史、島田卓哉、鈴木祥悟、山田文雄、小泉透	2015.09	森林総合研究所が収集したツキノワグマUrsus thibetanusの頭骨標本リスト	森林総合研究所研究報告、14(3):159-192
西村尚之(群馬大)、赤路康朗(岡山大)、鈴木智之(東大)、長谷川成明(北大)、小野清美(北大)、隅田明洋(北大)、原登志彦(北大)、 <b>飯田滋生</b> 、 <b>関剛</b> 、倉本恵生、杉田久志、中川弥智子(名古屋大)、松下通也(秋田県立大)、廣部宗(岡山大)、星野大介(国際農林水産業研究センター)、稲永路子(名古屋大)、山本進一(岡山大)	2015.03	北方針葉樹林におけるトウヒ属Piceaとモミ属Abiesの稚樹の動態に及ぼす林床環境の影響	低温科学、73:7-19
新山馨、佐藤保、八木橋勉、田中憲蔵、 <b>飯田滋生</b> 、木村勝彦(福島大学)、Azizi Ripin(マレーシア森林研究所)、Abd. Rahman Kassim(マレーシア森林研究所)、小杉緑子(京都大学)	2015.06	マレーシア半島、低地フタバガキ林でのNPPの長期変動と一斉開花	日本熱帯生態学会年次大会講演要旨集、25:72
倉本恵生、 <b>飯田滋生</b> 、 <b>津山幾太郎</b> 、藤田玲(草花堂)、 <b>橋本徹</b> 、 <b>相澤州平</b> 、 <b>伊藤江利子</b> 、 <b>佐々木尚三</b>	2015.10	Effects of experimental excavator traffic on forest floor vegetation in an Abies sachalinensis plantation in Hokkaido, Northern Japan(林業機械の実験的走行がトドマツ人工林の林床植生に与える影響)	FORMEC(Forest Mechanization Symposium) Proceedings、389-394
Alfredo Di FILIPPO(DAFNE)、Neil PEDERSON(Harvard Forest)、Michele BALIVA(DAFNE)、Michele Brunetti(ISAC)、Anna DINELLA(DAFNE)、 <b>KITAMURA Keiko(北村系子)</b> 、Hanns Dieter KNAPP(BFN)、Bartolomeo SCHIRONE(DAFNE)、Gianluca PIOVESAN(DAFNE)	2015.04	The longevity of broadleaf deciduous trees in Northern Hemisphere temperate forests: insights from tree-ring series.(北半球温帯性広葉樹の樹齢:年輪解析による知見)	Frontiers in Ecology and Evolution, section Paleocology、doi:10.3389/fevo.2015.00046
OKADA Momoko(岡田桃子・東大)、 <b>KITAMURA Keiko(北村系子)</b> 、Chunlan LIAN(練春蘭・東大)、GOTO Susumu(後藤晋・東大)	2015.04	The Effects of Multilocus Heterozygosity on the Longevity of Seedlings Established on Fallen Logs in Picea jezoensis and Abies sachalinensis.(エゾマツおよびトドマツの倒木更新における実生の生存に及ぼすヘテロ接合体率の影響)	Open Journal of Forestry、5:422-430

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
<b>KITAMURA Keiko(北村系子)</b> 、MATSUI Tetsuya(松井哲哉)、KOBAYASHI Makoto(小林誠・十日町市)、SAITOU Hitoshi(齋藤均・黒松内町)、NAMIKAWA Kanji(並川寛司・北海道教育大)、TSUDA Yoshiaki(津田吉晃・ウブサラ大学)	2015.04	Decline in gene diversity and strong genetic drift in the northward-expanding marginal populations of <i>Fagus crenata</i> . (ブナ北進最前線集団における遺伝的多様性の低下と遺伝的浮動)	Tree Genetics & Genomes、DOI:10.1007/s11295-015-0857-y
MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、 <b>KITAMURA Keiko (北村系子)</b> 、KOBAYASHI Makoto (小林誠・十日町市立里山科学館)、NAMIKAWA Kanji (並川寛司・北海道教育大)、SAITO Hitoshi (齋藤均・黒松内町ブナセンター)、ITAYA Akemi (板谷明美・三重大)、KITO Norio (紀藤紀夫・北海道教育大)、HARUKI Masahiro (春木雅寛・北大)、TERAZAWA Kazuhiko (寺沢和彦・東京農大)、TANAKA Nobuyuki (田中信行)	2015.09	History and age structure of <i>Fagus crenata</i> in the northward-expanding marginal populations in Japan(日本のブナ北限域における分布拡大個体群の歴史と樹齢構成について)	Abstract book of the 10th international beech symposium、p.95
<b>KITAMURA Keiko(北村系子)</b> 、KIKUCHI Nobuka(菊池葉香・北海道教育大)、NAMIKAWA Kanji(並川寛司・北海道教育大)、TANAKA Nobuyuki(田中信行)、MATSUI Tetsuya(松井哲哉)、 <b>TSUYAMA Ikutaro(津山幾太郎)</b> 、TERAZAWA Kazuhiko(寺沢和彦・東農大)、ISHIZUKA Wataru(石塚航・道総研林試)	2015.09	Gene diversity accumulation during initial beech forest regeneration at the northward distribution front - results from experimental and empirical populations (ブナ林北進最前線での初期定着過程における遺伝的多様性-天然および実験集団での結果)	10th International Beech Symposium IUFRO Working Party 1.01.07、91
<b>北村系子</b>	2016.01	第10回ユフロ国際ブナシンポジウム参加報告	森林遺伝育種、5(1):29-31
<b>北村系子</b> 、高嶋八千代(道東野生植物研究所)	2016.02	標津湿原ササのクローン分析(予報)	天然記念物標津湿原保全対策調査報告書、191-195
<b>北村系子</b>	2016.02	ササの遺伝分析について ジェネット分析と他殖率の推定	北海道の林木育種、58:16-19
後藤晋(東大)、鐘ヶ江弘美(東大)、石塚航(道総研)、 <b>北村系子</b> 、上野真義、久本洋子(東大)、永野惇(龍谷大)、岩田洋佳(東大)	2016.03	標高に沿ったトドマツの表現型変異と適応候補遺伝子へのアプローチ	日本森林学会大会学術講演集、127:80
並川寛司(北教大・札幌・生物)、 <b>北村系子</b> 、松井哲哉、高橋誠	2016.03	島嶼における北限、奥尻島ブナ林の種組成と葉緑体ハプロタイプとの関係について	日本生態学会大会講演要旨集、63:P2-029
<b>関剛</b>	2016.01	エゾマツとトドマツの結実を开花から予測する	北の森だより、15:6-7
<b>SEKI Takeshi (関剛)</b>	2016.03	Annual variation in vertical branch structure influencing crown-top expansion in <i>Abies sachalinensis</i> (トドマツの樹冠先端部拡大に影響を及ぼす、枝の垂直方向の構成における年次間変動)	日本生態学会大会講演要旨、63:P2-073
<b>津山幾太郎</b>	2015.05	気候変動と針葉樹の分布について	林木育種成果発表会(札幌市)、成果発表1番目
松井哲哉、中尾勝洋、 <b>津山幾太郎</b> 、比嘉基紀(高知大)、大丸裕武、小南祐志、大橋春香(森林総研PD)、安田正次(日林協)、中園悦子(東大)、小出大(国環研)、田中信行	2015.06	気候変動が天然林の潜在生育域に与える影響の評価と温暖化適応策	不動産学会誌、29(1):52-58

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
OHASHI Haruka (大橋春香・森林総研PD)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、HIGA Motoki (比嘉基紀・高知大)、KOIDE Dai (小出大・国環研)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、 <b>TSUYAMA Ikurato (津山幾太郎)</b> 、HANASAKI Naota (花崎直太・国環研)、HIJIOKA Yasuaki (脇岡靖明・国環研)、TAKAHASHI Kiyoshi (高橋潔・国環研)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、TANAKA Nobuyuki (田中信行)	2015.07	Combined effect of land use and climate change may accelerate range expansion of Sika deer in Japan(土地利用と気候変動が日本のシカの分布拡大を加速するかもしれない)	Vth International Wildlife management congress、0803
<b>津山幾太郎</b> 、中尾勝洋、松井哲哉、田中信行	2015.09	気候変動と針葉樹の分布	北海道の林木育種、58(1):7-12
<b>TSUYAMA Ikurato (津山幾太郎)</b>	2015.10	Picea jezoensis (Siebold & Zucc.) Carriere var. jezoensis, Phyllostachys pubescens Mazel ex Houzeau de Lehaie(エゾマツ、モウソウチク)	Important Plants of East Asia II: Endemic Plants Stories (Publisher: East Asian Biodiversity Conservation Network (EABCN) & Korea National Arboretum (KNA)), 128-129, 132-133
KOIDE Dai (小出大・国立環境研究所)、HIGA Motoki (比嘉基紀・高知大学)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、OHASHI Haruka (大橋春香・森林総研PD)、 <b>TSUYAMA Ikurato (津山幾太郎)</b> 、MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、TANAKA Nobuyuki (田中信行)	2016.01	Projecting spatiotemporal changes in suitable climate conditions to regenerate trees using niche differences between adult and juvenile trees(ブナにおける稚樹と親木のハビタットの違いに基づく更新適域の時空間変動予測)	European Journal of Forest Research、135(1):125-136
小出大(国立環境研究所)、比嘉基紀(高知大学)、中尾勝洋、大橋春香(森林総研PD)、 <b>津山幾太郎</b> 、松井哲哉、田中信行	2016.03	ブナにおける稚樹と親木のハビタットの違いに基づく更新適域の時空間変動予測	日本生態学会大会講演要旨集、63:F1-09
<b>NAKANISHI Atsushi(中西敦史)</b> ・愛知県森林林業技術センター)、YOSHIMARU Hiroshi(吉丸博志)、TOMARU Nobuhiro(戸丸信弘・名古屋大学)、MIURA Masahiro(三浦真弘)、MANABE Tohru(真鍋徹・北九州立自然史・歴史博物館)、YAMAMOTO Shin-ichi(山本進一・岡山大学)	2015.05	Inbreeding depression at the sapling stage and its genetic consequences in a population of the outcrossing dominant tree species, Castanopsis sieboldii.(他殖の優占木本植物スダジイの集団における稚樹ステージの近交弱勢とその遺伝的結果)	Tree Genetics & Genomes、DOI 10.1007/s11295-015-0890-x
<b>中西敦史</b> 、岡田桃子(日本公庫熊本)、石塚航(北海道立林試)、 <b>北村系子</b> 、練春蘭(東大アジアセンター)、後藤晋(東大(院)演習林教育研セ)	2016.03	エゾマツ集団における空間遺伝的構造と遺伝子散布	日本森林学会大会学術講演集、127:E5
酒井佳美、大村和香子、鶴川信(鹿児島大学)、石塚成宏、 <b>相澤州平</b>	2015.10	北海道、茨城、鹿児島でのスギとヒノキの材分解試験による初期分解過程の比較	第71回九州森林学会大会、71:714
阿部俊夫、 <b>相澤州平</b> 、 <b>橋本徹</b> 、 <b>佐々木尚三</b>	2015.11	ハーベスタ・フォワードシステムで間伐された林分に対するUSLEを用いた微細土流出量の試算	北方森林学会大会プログラム、64:8
<b>相澤州平</b>	2016.01	樹木に肥料を撒くと成長は良くなるか?	北の森だより、15:2
<b>相澤州平</b>	2016.02	北海道支所 2.2 樹木生理および土壌に関する研究分野	森林総合研究所百十年のあゆみ、165-167
阿部俊夫、 <b>相澤州平</b> 、 <b>橋本徹</b> 、 <b>佐々木尚三</b>	2016.02	ハーベスタ・フォワードシステムで間伐された林分に対するUSLEを用いた微細土流出量の試算	北方森林研究、64:83-86

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
相澤州平、伊藤江利子	2016.03	間伐と長期間の施肥がトドマツ、エゾマツ、アカエゾマツ人工林の成長とリター量に与えた影響	日本森林学会大会学術講演集、127:286(P2-232)
古澤仁美、長倉淳子、相澤州平、伊藤江利子	2016.03	38年連年施肥を受けている森林の土壤養分状態と微生物バイオマス	日本森林学会大会学術講演集、127:P2-216
酒井佳美、大村和香子、鶴川信(鹿児島大学)、石塚成宏、相澤州平	2016.03	北海道、茨城、鹿児島でのスギとヒノキの材分解試験による初期分解過程の比較	九州森林研究、69:75-80
松田修(九大理)、原真司(住友林業)、飛田博順、矢崎健一、中側敏法(九大農)、清水邦義(九大農)、上村章、宇都木玄	2015.05	赤外狭帯域画像を利用した針葉樹における効率的な選種法の開発	九州沖縄植物学会、67:11
KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)、HIDA Takeshi(飛驒剛・北海道大学)、EGUCHI Norikazu(江口則和・北海道大学)、TOBITA Hiroyuki(飛田博順)、UTSUGI Hajime(宇都木玄)、UEMURA Akira(上村章)、KITAOKA Satoshi(北岡哲・森林総研PD)、KOIKE Takayoshi(小池孝良・北海道大学)	2016.01	Light compensation points in shade-grown seedlings of deciduous broadleaf tree species with different successional traits raised under elevated CO <sub>2</sub> (高CO <sub>2</sub> ・庇陰条件下で生育した遷移特性が異なる落葉広葉樹の光補償点)	Plant Biology、18(S1):22-27
上村章、韓慶民、原山尚徳、伊藤江利子、宇都木玄、丸山温(日本大学)	2016.02	ヤナギバイオマス生産における台切り、除草の効果	第64回北方森林学会大会、64:P-26
宇都木玄、大野泰之(北海道林業試験場)、上村章、原山尚徳	2016.03	列状伐採後のカラマツ植栽に対応した、光一生産量予測管理図の作成	日本森林学会大会学術講演集、127:249
鎌倉真依(京都大学)、小杉緑子(京都大学)、高梨聡、奥村智憲(大阪府)、谷誠(京都大学)、上村章、Marianna Lion (FRIM)	2016.03	半島マレーシア熱帯雨林の林冠木で不均一な気孔閉鎖が起こる頻度と要因の検討	日本生態学会大会講演要旨集、63:P2-080
佐藤弘和(道総研)、津田高明(道総研)、倉本恵生、橋本徹、飯田滋生	2015.11	車両走行により締め固められた集材路における土壌物理性の回復	第64回北方森林学会講演要旨、64:P-14
INAGAKI Yoshiyuki(稲垣善之)、INAGAKI Masahiro(稲垣昌宏)、HASHIMOTO Toru(橋本徹)、KANEKO Shinji(金子真司)	2015.12	Stable nitrogen and carbon isotope ratios and related leaf properties of four tree species at high and low nitrogen-deposition sites in the Kanto district of Japan(日本の関東地方の窒素負荷が異なる地域における4樹種の窒素、炭素安定同位体比および葉の性質)	Bulletin of Forestry and Forest Products Research Institute(森林総合研究所研究報告)、14(4):201-208
倉本恵生、飯田滋生、今博計(道総研)、佐藤弘和(道総研)、橋本徹、佐々木尚三	2016.02	機械搬出を行った間伐前後におけるトドマツ人工林の林床植生発達と樹木の更新	北方森林研究、64:57-60
橋本徹、相澤州平、伊藤江利子	2016.02	グラップルレーキによる地掻き後の土壤断面形態	北方森林研究、64:53-56
橋本徹、相澤州平、伊藤江利子、倉本恵生、佐々木尚三	2016.03	林業機械走行による土壤圧密における枝条と積雪の保護効果	日本森林学会大会学術講演集、127:284
橋本徹、相澤州平、伊藤江利子	2016.03	37年間NP施肥を続けたトドマツ林における土壤CO <sub>2</sub> フラックスとリター分解速度	日本生態学会大会講演要旨集、63:PA2-434

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
MIURA Satoru (三浦覚)、AOYAMA Michio (青山道夫・福島大学)、 <u>ITO Eriko (伊藤江利子)</u> 、SHICHI Koji (志知幸治)、TAKATA Daisuke (高田大輔・東京大学)、MASUMORI Masaya (益守眞也・東京大学)、SEKIYA Nobuhito (関谷信人・東京大学)、KOBAYASHI Natsuko (小林奈通子・東京大学)、TAKANO Naoto (高野直人・スカラベコーポレーション)、KANEKO Shinji (金子真司)、TANOI Keitaro (田野井慶太郎・東京大学)、NAKANISHI Tomoko (中西友子・東京大学)	2015.04	Towards prediction of redistribution of fallout radiocesium on forested area discharged from Fukushima Nuclear Power Plant (福島原子力発電所から放出された森林域に降下した放射性セシウムの二次分布の予測に向けて)	Geophysical Research Abstracts、17:EGU2015-8989
MIURA Satoru (三浦覚)、AOYAMA Michio (青山道夫・福島大学)、 <u>ITO Eriko (伊藤江利子)</u> 、SHICHI Koji (志知幸治)、TAKATA Daisuke (高田大輔・東京大学)、MASUMORI Masaya (益守眞也・東京大学)、SEKIYA Nobuhito (関谷信人・東京大学)、KOBAYASHI Natsuko (小林奈通子・東京大学)、TAKANO Naoto (高野直人・スカラベコーポレーション)、KANEKO Shinji (金子真司)、TANOI Keitaro (田野井慶太郎・東京大学)、NAKANISHI Tomoko (中西友子・東京大学)	2015.05	Distribution of radiocesium fallout on forest area throughout Japan after decades from former atmospheric nuclear tests (数十年前に日本全国の森林域に降下した大気圏核実験由来の放射性セシウムの分布)	Japan Geoscience Union Meeting 2015、MAG38-06
門田有佳子(宮崎大)、 <u>伊藤江利子</u> 、清野嘉之、佐藤保、鳥山淳平、SOKH Heng (カンボジア森林局)、CHANN Sophal (カンボジア森林局)、TITH Bora (カンボジア森林局)、KETH Samkol (カンボジア森林局)、PHALLAPHEARAOTH Op (カンボジア森林局)	2015.06	熱帯落葉季節林の樹木の形とバイオマス分配の地域差	日本熱帯生態学会年次大会講演要旨集、25:100
IIDA Shin'ichi (飯田真一)、SHIMIZU Takanori (清水貴範)、TAMAI Koji (玉井幸治)、KABEYA Naoki (壁谷直記)、SHIMIZU Akira (清水晃)、 <u>ITO Eriko (伊藤江利子)</u> 、OHNUKI Yasuhiro (大貫靖浩)、Sophal Chann (Forest-Wildlife Research and Development Institute, Cambodia)、Nang Keth (Forest-Wildlife Research and Development Institute, Cambodia)	2015.06	Interrelationships among dry season leaf fall, leaf flush and transpiration: insights from sap flux measurements in a tropical dry deciduous forest (乾季の落葉と展葉、蒸散の相互関係の解明: 熱帯乾燥落葉林における樹液流速測定に基づく知見)	Ecohydrology、DOI:10.1002/eco.1650

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
飯田真一、清水貴範、玉井幸治、大貫靖浩、壁谷直記、清水晃、 <u>伊藤江利子</u> 、Chann Sophal (Forest-Wildlife Research and Development Institute, Cambodia)、Keth Nang (Forest-Wildlife Research and Development Institute, Cambodia)	2015.09	カンボジア熱帯乾燥落葉林における乾季の蒸散活動と植物季節の関係	水文・水資源学会2015年度研究発表会要旨集、162-163
長倉淳子、古澤仁美、 <u>伊藤江利子</u> 、 <u>相澤州平</u>	2016.03	1978年から連続施肥を受けているウダイカンバの養分状態	日本森林学会大会学術講演集、127:P2-215
飛田博順、 <u>原山尚徳</u> 、小笠真由美、矢崎健一、北尾光俊、 <u>上村章</u> 、諏訪鍊平、山下直子、奥田史郎、壁谷大介、山田健、宇都木玄、梶本卓也	2015.10	スギ・ヒノキコンテナ苗の根の電解質漏出率	関東森林学会大会講演要旨集、5:55(発表番号)
TOBITA Hiroyuki(飛田博順)、YAZAKI Kenichi(矢崎健一)、 <u>HARAYAMA Hisanori(原山尚徳)</u> 、KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)	2015.10	Responses of symbiotic N-2 fixation in Alnus species to the projected elevated CO2 environment(将来予測される高CO2に対するハンノキ属樹種の共生的窒素固定の反応)	Trees - Structure and Function、DOI:10.1007/s00468-015-1297-x
宇都木玄、 <u>原山尚徳</u> 、 <u>伊藤江利子</u> 、 <u>上村章</u> 、 <u>韓慶民</u>	2015.11	エネルギー作物としてのヤナギの可能性	季刊森林総研、31:12-13
<u>原山尚徳</u> 、飛田博順、今博計(道総研林試)、石塚航(道総研林試)、来田和人(道総研林試)	2016.01	夏植え活着向上処理したカラマツコンテナ苗の生理生態特性	革新的技術緊急展開事業(うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立)「コンテナ苗を活用した低コスト造林技術の実証研究」総括セミナー、発表番号25
<u>原山尚徳</u> 、 <u>上村章</u> 、 <u>津山幾太郎</u> 、山田健、宇都木玄、倉本恵生、 <u>佐々木尚三</u>	2016.02	クラッシュ地拵による下草抑制効果	北方森林研究、64:61-62
飛田博順、 <u>原山尚徳</u> 、小笠真由美、矢崎健一、北尾光俊、 <u>上村章</u> 、諏訪鍊平、山下直子、奥田史郎、壁谷大介、落合幸仁(住友林業)、山田健、宇都木玄、梶本卓也	2016.03	スギ・ヒノキコンテナ苗の根の電解質漏出率	関東森林研究、67(1):105-108
<u>原山尚徳</u> 、 <u>上村章</u> 、来田和人(道総研林試)、山田健、宇都木玄、 <u>佐々木尚三</u>	2016.03	北海道における低コスト造林手法の開発	日本森林学会大会学術講演集、127:S1-9
<u>原山尚徳</u>	2016.03	北方針葉樹種ポット苗における灌水停止後の生理生態特性の反応	日本生態学会大会講演要旨、63:P2-072
譚正洪(中国科学院)、于贵瑞(中国科学院)、周国逸(中国科学院)、韩士杰(中国科学院)、夏禹九(东华大)、前田高尚(産総研)、小杉緑子(京都大)、 <u>山野井克己</u> 、李胜功(中国科学院)、太田岳史(名古屋大)、平田竜一(国環研)、安田幸生、中野隆志(山梨県)、小南裕志、北村兼三、 <u>溝口康子</u> 、廖志勇(中国科学院)、赵俊福(中国科学院)、杨廉雁(中国科学院)	2015.06	亚洲东部森林の小気候特征: 1. 放射和能量的平衡 (Microclimate of forests across East Asia biomes: 1. Radiation and energy balance)(東アジアの植物群集の森林微気象特性 1:放射とエネルギーバランス)	植物生态学报(Chinese Journal of Plant Ecology)(中国植物生態誌)、39(6):541-553
北村兼三、萩野裕章、 <u>山野井克己</u> 、黒川潮、壁谷直記	2015.10	鹿北フラックス観測サイトにおける観測システムのネットワーク化	森林総合研究所九州支所年報、27:11
<u>YAMANOI Katsumi(山野井克己)</u> 、 <u>MIZOGUCHI Yasuko(溝口康子)</u> 、UTSUGI Hajime(宇都木玄)	2015.12	Effects of a windthrow disturbance on the carbon balance of a broadleaf deciduous forest in Hokkaido, Japan.(北海道の落葉広葉樹林における風倒による攪乱の炭素収支への影響)	Biogeosciences、12(23):6837-6851
<u>山野井克己</u>	2016.02	北海道支所 2.3 寒地の環境保全に関する研究分野	森林総合研究所百十年のあゆみ、167-170

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
<b>山野井克己、溝口康子</b> 、安田幸生、深山貴文、高梨聡、宇都木玄、小南裕志、北村兼三、中野隆志(山梨県富士山科学研究所)	2016.03	長期モニタリングと群落微気象モデルによる森林群 落炭素収支の変動予測	研究成果第558集「気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のためのプロジェクトー森林及び林業分野における温暖化対策ー地球温暖化が森林及び林業分野に与える影響評価と適応技術の開発」(農林水産技術会議事務局)、58-64
<b>山野井克己、溝口康子</b> 、高梨総、北村兼三	2016.03	温暖化に伴う森林の炭素吸収量の地域的差異	日本農業気象学会2016年全国大会講演要旨、102
KOMATSU Masabumi (小松雅史)、YOSHIMURA Kenichi (吉村謙一・森林総研PD)、FUJII Saori (藤井佐織・横国大)、YAZAKI Kenichi (矢崎健一)、TOBITA Hiroyuki (飛田博順)、 <b>MIZOGUCHI Yasuko (溝口康子)</b> 、MIYAMA Takafumi (深山貴文)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、YASUDA Yukio (安田幸生)、 <b>YAMANOI Katsumi (山野井克己)</b> 、KITAO Mitsutoshi (北尾光俊)	2015.09	Estimation of ozone concentrations above forests using atmospheric observations at urban air pollution monitoring stations(大気観測局の観測データを用いた森林上のオゾン濃度の推定)	Journal of Agricultural Meteorology、71(3):202-210
<b>溝口康子、山野井克己</b>	2015.09	羊ヶ丘実験林における降水量の測定誤差ー測器の違いによる影響ー	森林総合研究所研究報告、14(3):145-146
ICHHI Kazuhito (市井和仁・海洋研究開発機構・国立環境研究所)、UEYAMA Masahito (植山雅仁・大阪府立大学)、KONDO Masayuki (近藤雅征・海洋研究開発機構)、SAIGUSA Nobuko (三枝信子・国立環境研究所)、Ma. Carmelita Alberto (国際稲研究所、International Rice Research Institute)、KITAMURA Kenzo (北村兼三)、KOTANI Ayumi (小谷亜由美・名古屋大学)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、MAEDA Takahisa (前田高尚・産業技術総合研究所)、 <b>MIZOGUCHI Yasuko (溝口康子)</b> 、SHIMIZU Takanori (清水貴範)、YASUDA Yukio (安田幸生)	2015.11	UPSCALING TERRESTRIAL CO2 FLUXES IN ASIA USING AN INTEGRATED DATABASE OF EDDY-COVARIANCE MEASUREMENTS(アジアにおける新たなフラックス観測、統合データセットを用いた陸域CO2フラックスの広域化)	PROCEEDINGS of Joint conference of the AsiaFlux Workshop 2015 and ISPRS TC WG VIII/3、52
<b>溝口康子、山野井克己</b>	2015.12	羊ヶ丘実験林気象観測露場40年の記録	森林総合研究所研究報告、14(4):209-218

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
UEYAMA Masahito (植山雅仁・大阪府立大学)、ICHI Kazuhito (市井和仁・海洋研究開発機構)、KOBAYASHI Hideki (小林秀樹・海洋研究開発機構)、Ma. Carmerita Alberto (International Rice Research Institute)、Syndonia BRET-HARTE (University of Alaska)、Colin EDGAR (University of Alaska)、Eugenie EUSKIRCHEN (University of Alaska)、HARAZONO Yoshinobu (原菌芳信・University of Alaska)、HIRANO Takashi (平野高司・北海道大学)、HIRATA Ryuichi (平田竜一・国立環境研究所)、IDE Reiko (井手玲子・国立環境研究所)、KOSUGHI Yoshiko (小杉緑子・京都大学)、MACHIMURA Takashi (町村尚・大阪大学)、 <b>MIZOGUCHI Yasuko (溝口康子)</b> 、OHTA Takeshi (太田岳史・名古屋大学)、ONO Keisuke (小野圭介・農業環境技術研究所)、SAIGUSA Nobuko (三枝信子・国立環境研究所)、SAITOH Taku (斎藤琢・岐阜大)、TAKAGI Kentaro (高木健太郎・北海道大学)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、Yiping ZHANG (Chinese Academy of Sciences)	2015.12	Ecophysiological parameters for a coupled photosynthesis and stomatal conductance model derived from eddy covariance measurements in Asia(アジアにおける渦相関測定から導き出された光合成・気孔コンダクタンス統合モデルのための生態生理学パラメータ)	AGU Fall Meeting 2015 abstracts, B43H-0641
<b>溝口康子、山野井克己</b>	2016.03	森林の攪乱及び気象条件の変化が光合成に与える影響	日本農業気象学会2016年全国大会講演要旨、101
清水貴範、飯田真一、玉井幸治、田中憲蔵、大貫靖浩、壁谷直記、清水晃、 <b>延廣彦彦</b>	2015.09	東南アジアの天然生乾燥常緑林における渦相関法による雨季・乾季の蒸発散量の変動について	水文・水資源学会2015年度研究発表会要旨集、166-167
飯田真一、清水貴範、玉井幸治、壁谷直記、清水晃、 <b>延廣彦彦</b> 、Delphis Levia(米国デラウェア大学)	2015.10	スギ壮齢林分における降雨遮断強度の変動特性	2015年度日本水文学会学会術大会発表要旨集、30:41-44
Rob C. Johns(カナダ森林研究センター)、TOBITA Hiroyuki(飛田博順)、HARA Hideho(原秀徳・道総研林試)、 <b>OZAKI Kenichi(尾崎研一)</b>	2015.07	Adaptive advantages of dietary mixing different-aged foliage within conifers for a generalist defoliator (針葉樹で、異なる齢の葉が混在していることは、何でも食害する植食者に対して、有利に作用する)	Ecological Research、30:793-802
<b>佐藤重穂</b> 、奥村栄朗	2016.02	四国支所 4.保護分野の研究	森林総合研究所百十年のあゆみ、204-205
<b>佐藤重穂</b>	2016.02	四国支所 5.経営分野の研究	森林総合研究所百十年のあゆみ、205-207
<b>佐藤重穂</b>	2016.03	病虫害による材の劣化を低減するために	これからの森林づくりのために持続的な人工林管理のヒント、8、18-20
<b>佐藤重穂</b>	2016.03	四国山地におけるコマドリの新息密度にニホンジカの増加が及ぼす影響	日本生態学会大会講演要旨集、63:P2-336
松本剛史、 <b>佐藤重穂</b>	2016.03	キバチ共生菌キバチウロコタケを接種した材へのオナガキバチの繁殖成功率	日本森林学会大会学術講演集、127:269(P2-161)
<b>ISHIHARA Makoto (石原誠)</b> 、TAKIKAWA Yuichi (瀧川雄一・静岡大学)、AKIBA Mitsuteru (秋庭満輝)、KAWABE Yuji (河辺祐嗣・元森林総研)	2015.12	A new bacterial disease observed on Quercus myrsinifolia(シラカシに見出された新しい細菌病)	Forest Pathology、45(6):459-466
<b>石原誠、松浦友紀子</b>	2016.02	下川町ヤナギ植栽地における獣害の発生実態(II)-冬期積雪期におけるヤナギへの獣害の発生傾向について-	北方森林研究、64:45-46

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
石原誠、小河誠司(元福岡県森林林業技術センター)	2016.03	トキワマンサクこぶ病(新称)の発生	平成28年度日本植物病理学会大会プログラム・講演要旨予稿集、2016:154(532)
奥田岬(京都府立大)、石原誠、池田武文(京都府立大)	2016.03	光条件がツメイヨシノこぶ病の病徴に与える影響の組織解剖学的考察	日本森林学会大会学術講演集、127:158(P1-203)
佐山勝彦、尾崎研一、原秀穂(道総研林業試験場)、小野寺賢介(道総研林業試験場)	2015.06	2013年に北海道で発生した森林昆虫	森林保護、338:9-13
SOGA Masashi(菅我昌史・東大)、KAWAHARA Takayuki(河原孝行)、FUKUYAMA Kenji(福山研二)、SAYAMA Katsuhiko(佐山勝彦)、SHIMOMURA Michitaka(下村通誉・北九州市立自然史歴史博物館)、ITOH Tetsuya(伊藤哲也・日本海洋生物研究所)、YOSHIDA Takao(吉田尚生・九大)、OZAKI ken-ichi(尾崎研一)	2015.08	Landscape versus local factors shaping butterfly communities in fragmented landscapes: Does host plant diversity matter?(景観構造vs断片化された景観におけるチョウ群集を形成する局所要因:食草の多様性は重要か?)	Journal of Insect Conservation、19(4):781-790
井上大成、松本和馬(国際環境研究協会)、佐藤隆士(兵庫県加西市)、後藤秀章、佐山勝彦、関剛、浦野忠久、濱口京子、松本剛史、佐藤重穂	2015.09	森林総合研究所本所・支所・試験地のチョウ類相とその変遷	日本昆虫学会大会講演要旨、75:53
佐山勝彦	2016.01	北海道におけるチャイロスズメバチの分布拡大とその変遷	日本応用動物昆虫学会・日本昆虫学会共催北海道支部大会講演要旨(2015年度)、4
山中聡(北海道大学)、佐山勝彦、倉本恵生、飯田滋生、山浦悠一、尾崎研一	2016.02	北方針広混交林における択伐後の小面積樹冠下地はぎがオサムシ類(コウチュウ目:オサムシ科)に及ぼす影響	日本応用動物昆虫学会誌、60(1):33-41
尾崎研一、佐山勝彦	2016.03	更新補助作業による昆虫相の変化	北方天然林の再生を目指して森林総合研究所第3期中期計画成果34(森林・林業再生-8)、13
松浦友紀子	2015.04	シカ捕獲認証制度スタート!	一般社団法人エゾシカ協会 NewsLetter、38:1
松浦友紀子	2015.04	ニホンジカの資源管理に関する研究—新たな衛生管理手法と猟区制度の活用—	JATAFFジャーナル、3:30-34
松浦友紀子、伊吾田宏正(酪農学園大学)、岡本匡代(釧路短期大学)、伊吾田順平(NPO法人西興部村猟区管理協会)	2015.06	野外で内臓摘出したエゾシカ枝肉の衛生状況	哺乳類科学、55(1):11-20
梶光一(農工大)、高橋裕史、吉田剛司(酪農大)、伊吾田宏正(酪農大)、松浦友紀子、池田敬(農工大)、日野貴文(酪農大)、東谷宗光(酪農大)	2015.06	洞爺湖中島ニホンジカ個体群からの知見 1.体サイズと生活史特性の変化	哺乳類科学、55(1):79
池田敬(農工大)、高橋裕史、伊吾田宏正(酪農大)、松浦友紀子、東谷宗光(酪農大)、丸智明(酪農大)、吉田剛司(酪農大)、梶光一(農工大)	2015.06	2.目標密度達成へのモニタリング手法の開発	哺乳類科学、55(1):73
高橋裕史、松浦友紀子、伊吾田宏正(酪農大)	2015.06	ニホンジカ低密度実現・維持に向けた課題:捕獲とモニタリングを中心に	哺乳類科学、55(1):73-74

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
NODA Chie(野田千愛・岐阜大学)、 <b>MATSUURA Yukiko(松浦友紀子)</b> 、IGOTA Hiromasa(伊吾田宏正・酪農学園大学)、KAJI Koichi(梶光一・東京農工大学)、YOSHIDA Tsuyoshi(吉田剛司・酪農学園大学)、TAKAHASHI Hiroshi(高橋裕史)、ASANO Makoto(浅野玄・岐阜大学)、SUZUKI Masatsugu(鈴木正嗣・岐阜大学)	2015.07	Characterization of Sarcocystis in an Isolated Population of Hokkaido Sika Deer (Cervus nippon yesoensis) on Nakanoshima Island.(北海道洞爺湖中島シカ個体群で発見された住肉孢子虫の特徴)	Vth International Wildlife Management Congress, Abstracts、353
<b>MATSUURA Yukiko(松浦友紀子)</b> 、IGOTA Hiromasa(伊吾田宏正・酪農学園大学)、AZUMAYA Munemitsu(東谷宗光・エゾシカ協会)、TERADA Chisato(寺田千里・北海道大学)、SUZUKI Masatsugu(鈴木正嗣・岐阜大学)	2015.07	Hunting Accidents and Hunter Education in Japan.(狩猟事故とハンター教育)	Vth International Wildlife Management Congress, Abstracts、258
IKEDA Takashi(池田敬・北海道大学)、 <b>MATSUURA Yukiko(松浦友紀子)</b> 、TAKAHASHI Hiroshi(高橋裕史)、YOSHIDA Tsuyoshi(吉田剛司・酪農学園大学)、KAJI Koichi(梶光一・東京農工大学)	2015.07	Estimating Density of Sika Deer Population from Random Encounter Model Using Camera-Trap Survey.(カメラトラップを用いたシカ密度推定法)	Vth International Wildlife Management Congress, Abstracts、317-318
<b>松浦友紀子</b> 、伊吾田宏正(酪農学園大学)、寺田千里(北海道大学)、鈴木正嗣(岐阜大学)	2015.07	狩猟事故の要因をさぐるー2007年から2011年の日本の狩猟事故分析ー	野生生物と社会、2(2):1-8
IKEDA Takashi(池田敬・農工大)、TAKAHASHI Hiroshi(高橋裕史)、IGOTA Hiromasa(伊吾田宏正・酪農大)、 <b>MATSUURA Yukiko(松浦友紀子)</b> 、AZUMAYA Munemitsu(東谷宗光・酪農大)、YOSHIDA Tsuyoshi(吉田剛司・酪農大)、TAKESHITA Kazutaka(竹下和貴・農工大)、KAJI Koichi(梶光一・農工大)	2015.07	Change in activity pattern of sika deer before, during, and after culling operation (ニホンジカ密度操作過程における活動パターンの変化)	Vth International Wildlife Management Congress, Abstracts、317-318
<b>松浦友紀子</b>	2015.09	ニホンジカの食肉資源化に向けた取り組み	山林、1576:2-11
<b>松浦友紀子</b>	2015.10	シカ捕獲認証者誕生!!	一般社団法人エゾシカ協会 NewsLetter、39:1
<b>松浦友紀子</b> 、伊吾田宏正(酪農学園大学)、岡本匡代(釧路短期大学)、伊吾田順平(西興部村猟区管理協会)	2015.11	野外でシカの衛生的な内臓摘出は可能か	野生生物と社会学会沖縄大会大会プログラム・講演要旨集、113
東谷宗光(一般社団法人エゾシカ協会)、 <b>松浦友紀子</b> 、伊吾田宏正(酪農学園大学)、赤坂猛(酪農学園大学)、宇野裕之(道総研)、早稲田宏一(EnVision)、伊吾田順平(西興部村猟区管理協会)、井田宏之(一般社団法人エゾシカ協会)	2015.11	日本初のシカ捕獲認証制度スタート!	野生生物と社会学会沖縄大会大会プログラム・講演要旨集、107
七條知哉(酪農学園大学)、伊吾田宏正(酪農学園大学)、伊吾田順平(西興部村猟区管理協会)、 <b>松浦友紀子</b>	2015.11	エゾシカの枝角の発達成長について	野生生物と社会学会沖縄大会大会プログラム・講演要旨集、103

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
伊吾田宏正(酪農学園大学)、 <u>松浦友紀子</u> 、東谷宗光(エゾシカ協会)	2015.11	次世代の大型哺乳類管理の担い手を創出するには?~英国シカ捕獲認証を参考に	野生生物と社会、3(1):29-34
IKEDA Takashi (池田敬・農工大)、TAKAHASHI Hiroshi (高橋裕史)、YOSHIDA Tsuyoshi (吉田剛司・酪農大)、IGOTA Hiromasa (伊吾田宏正・酪農大)、 <u>MATSUURA Yukiko (松浦友紀子)</u> 、TAKESHITA Kazutaka (竹下和貴・農工大)、KAJI Koichi (梶光一・農工大)	2015.12	Seasonal variation of activity pattern in sika deer (Cervus nippon) as assessed by camera trap survey(カメラトラップを用いて査定されたニホンジカ活動パターンの季節変化)	Mammal Study、40(4):199-205
高山範理、 <u>八巻一成</u>	2015.03	都市近郊林の文化的サービスの持続的発揮に向けてー多様な学問領域の視点からー	日本森林学会大会学術講演集、126:38
<u>YAMAKI Kazushige (八巻一成)</u>	2015.04	Network governance of endangered species conservation: a case study of Rebus Lady's-Slipper (絶滅危惧種保全のネットワーク・ガバナンス:レブンアツモリソウを事例として)	Journal for Nature Conservation、24:83-92
高山範理、 <u>八巻一成</u>	2015.05	都市近郊林の文化的サービスの持続的発揮に向けて:多様な学問領域の視点から	森林技術、878:26-27
KAWAHARA Takayuki (河原孝行)、KODA Yasunori (幸田泰則・北海道大)、SHIMURA Hanako (志村華子・北海道大)、TAKAHASHI Hideki (高橋英樹・北海道大)、KOSAKA Noriko (小坂典子・北海道大)、SUGIURA Naoto (杉浦直人・熊本大)、 <u>YAMAKI Kazushige (八巻一成)</u> 、ITAHANA Naoei (板鼻直栄)、TANI Naoki (谷尚樹・熱帯農業研究センター)、YOSHIMARU Hiroshi (吉丸博志)	2015.10	Conservation and restoration researches of Japanese endangered plants: case studies of Cypripedium macranthos var. rebunense and Morus boninensis(日本の絶滅危惧種の保全及び修復の研究:レブンアツモリソウとオガサワラグワの研究事例)	2015 Korean National Arboretum International Symposium: Biodiversity Conservation & Seed Vault、p37
<u>八巻一成</u>	2015.11	関係者による自然資源ガバナンスの評価:レブンアツモリソウ保全を事例として	林業経済学会2015年秋季大会発表要旨、B2
Thomas Edward Jones (明治大)、 <u>YAMAKI Kazushige (八巻一成)</u>	2015.11	Changing access and conservation mechanisms in the national parks of England and Wales: a review of five policy milestones (イギリスの国立公園におけるアクセスおよび保全の変遷ー5つの政策の検討を通してー)	Journal of Forest Economics (林業経済研究:英文)、61(3):1-11
<u>八巻一成</u>	2015.12	国有林の公益的機能と公共性の現代的意味	林業経済、68(9):21-22
<u>八巻一成</u>	2016.01	地域主体のガバナンスをどうつくるか	「田舎暮らし」と豊かさーコモンズと山村振興ー(日本林業調査会、180頁)、139-165
<u>八巻一成</u>	2016.02	書評「ナチスと自然保護」	林業経済、68(11):22-25
<u>八巻一成</u>	2016.02	北海道における林業遺構の現状ー森林鉄道を中心としてー	歴博映像フォーラム10 屋久島の森に眠る人々の記憶、4-7
<u>八巻一成</u>	2016.03	林業遺産の保存と活用をめぐる現状と課題ー北海道の森林鉄道遺構を事例として	日本森林学会大会学術講演集、127:102

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
OTA Tetsuji (太田徹志・九州大学)、KAJISA Tsuyoshi (加治佐剛・鹿児島大学)、MIZOUE Nobuya (溝上展也・九州大学)、YOSHIDA Shigejiro (吉田茂二郎・九州大学)、TAKAO Gen (鷹尾元)、HIRATA Yasumasa (平田泰雅)、 <b>FURUYA Naoyuki (古家直行)</b> 、SANO Takio (佐野滝雄・アジア航測)、Heng Sokh (カンボジア森林局)、Vuthy Ma (カンボジア森林局)、 <b>ITO Eriko (伊藤江利子)</b> 、TORIYAMA Junpei (鳥山淳平)、MONDA Yukako (宮崎大学・門田有佳子)、SAITO Hideki (齋藤英樹)、KIYONO Yoshiyuki (清野嘉之)、Sopha Chann (カンボジア森林局)、Nang Ket (カンボジア森林局)	2015.04	Measuring the Above Ground Biomass of Tropical Seasonal Forests from Aircraft (航空機から熱帯季節林の地上部バイオマスを計測する)	Utilizing Forests under Climate Change、55
HIRATA Yasumasa (平田泰雅)、 <b>FURUYA Naoyuki (古家直行)</b> 、SAITO Hideki (齋藤英樹)、TAKAO Gen (鷹尾元)、MIZOUE Nobuya (溝上展也・九州大学)、OTA Tetsuji (太田徹志・九州大学)、KAJISA Tsuyoshi (加治佐剛・鹿児島大学)、Leng Chivin (カンボジア森林局)、Pak Chealy (カンボジア森林局)	2015.04	Monitoring Changes in Tropical Forests from Space(宇宙から熱帯林の変化を監視する)	Utilizing Forests under Climate Change、54
鷹尾元、 <b>古家直行</b> 、平田泰雅	2015.05	隠れた伐採も見逃さない 宇宙から森林劣化を監視する	森林総合研究所 平成27年版 研究成果選集、42-43
OTA Tetsuji (太田徹志・九州大学)、KAJISA Tsuyoshi (加治佐剛・鹿児島大学)、MIZOUE Nobuya (溝上展也・九州大学)、YOSHIDA Shigejiro (吉田茂二郎・九州大学)、TAKAO Gen (鷹尾元)、HIRATA Yasumasa (平田泰雅)、 <b>FURUYA Naoyuki (古家直行)</b> 、SANO Takio (佐野滝雄・アジア航測)、Raul Ponce-Hernandez (Trent University)、Oumer S. Ahmed (Trent University)、Heng Sokh (Forestry Administration Cambodia)、Vuthy Ma (Forestry Administration Cambodia)、 <b>ITO Eriko (伊藤江利子)</b> 、TORIYAMA Junpei (鳥山淳平)、MONDA Yukako (門田有佳子・宮崎大学)、SAITO Hideki (齋藤英樹)、KIYONO Yoshiyuki (清野嘉之)、Sopha Chann (Forestry Administration Cambodia)、Nang Ket (Foresrty Adminiartation Cambodia)	2015.08	Estimating aboveground carbon using airborne LiDAR in Cambodian tropical seasonal forests for REDD+ implementation(REDD+実施のためのカンボジア熱帯季節林における航空機LiDARを用いた地上部炭素の測定)	Journal of Forest Research、20(6):484-492

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
HIRATA Yasumasa (平田泰雅)、 <b>FURUYA Naoyuki (古家直行)</b> 、Pak Chealy (Forestry Administration, Cambodia)、Leng Chivin (Forestry Administration, Cambodia)、Sokh Heng (Forestry Administration, Cambodia)、Ma Vuthy (Forestry Administration, Cambodia)、OTA Tetsuj (太田徹志・九州大学)、KAJISA Tsuyoshi (加治佐剛・鹿児島大学)、MIZOUE Nobuya (溝上展也・九州大学)	2015.09	Development of a scaling technique of ALS-derived aboveground biomass using high resolution satellite data in tropical seasonal forest (熱帯季節林における高分解能衛星データを用いた航空機レーザーキャナから導き出された地上バイオマスのスケーリング技術の開発)	Proceedings of SilviLaser 2015、171-173
OTA Tetsuji (太田徹志・九州大学)、OGAWA Miyuki (小川みゆき・九州大学)、SHIMIZU Katsuto (志水克人・九州大学)、KAJISA Tsuyoshi (加治佐剛・鹿児島大学)、MIZOUE Nobuya (溝上展也・九州大学)、YOSHIDA Shigejiro (吉田茂二郎・九州大学)、TAKAO Gen (鷹尾元)、HIRATA Yasumasa (平田泰雅)、 <b>FURUYA Naoyuki (古家直行)</b> 、SANO Takio (佐野滝雄・アジア航測)、Heng Sokh (Forestry Administration Cambodia)、Vuthy Ma (Forestry Administration Cambodia)、 <b>ITO Eriko (伊藤江利子)</b> 、TORIYAMA Junpei (鳥山淳平)、MONDA Yukako (門田有佳子・宮崎大学)、SAITO Hideki (齋藤英樹)、KIYONO Yoshiyuki (清野嘉之)、Sopha Chann (Forestry Administration Cambodia)、Nang Ket (Forestry Administration Cambodia)	2015.10	Aboveground biomass estimation using structure from motion approach with aerial photographs in a seasonal tropical forest(熱帯季節林における空中写真のStructure from motion法による地上部バイオマスの評価)	Forests、6:3882-3898
<b>古家直行</b>	2015.10	空から森林を測る	平成27年度北海道地域研究成果発表会「樹木に迫るー成長・繁殖・変化ー」、発表番号4
<b>古家直行</b>	2015.11	隠れた伐採も見逃さない 宇宙から森林劣化を監視する	第13回環境シンポジウム 2050年の地球と暮らしー環境技術と地球規模課題ー要旨集、39
<b>古家直行</b>	2015.11	地域によって異なる雲の出現傾向ー宇宙からの熱帯林の定期観測の実現に向けてー	季刊森林総研、31:22-23
<b>古家直行</b> 、尾張敏章(東京大学北海道演習林)	2015.12	森林計画学会春季シンポジウム2015:森林計画・管理における空間情報技術活用の最前線ー北海道からの報告ー開催報告	森林計画学会誌、49(1):55-60
尾張敏章(東京大学北海道演習林)、 <b>古家直行</b>	2015.12	森林計画学会春季シンポジウム2015:森林計画・管理における空間情報技術活用の最前線ー北海道からの	森林計画学会誌、49(1):1-2
<b>古家直行</b> 、 <b>伊藤江利子</b> 、高橋正義、松井哲哉	2015.12	GIS空間解析による木質バイオマス生産のためのヤナギ潜在栽培適地評価	森林計画学会誌、49(1):21-26
<b>FURUYA Naoyuki (古家直行)</b> 、NODA Iwao (野田巖・国際農林水産業研究センター)、Woraphun Himmapan (タイ王室森林局)	2015.12	Development of techniques for estimating growing stocks in teak plantations using remote sensing(リモートセンシングを用いたチーク人工林における材積推定技術の開発)	Abstract of Workshop on Improvement of Utilization Techniques of Forest Resources to Promote Sustainable Forestry in Thailand、:24-25
<b>古家直行</b>	2016.01	空から森林を測る	北の森だより、15:5

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号、頁)
古家直行、佐々木尚三、中根貴雄(フォテック)、小玉哲大(フォテック)、栗川二郎(ティンバーテック)、山田健	2016.02	育林作業機による植栽計画立案のためのUAV地況把握ー機械走行の障壁となる伐根自動抽出ー	北方森林研究、64:47-48
小谷英司、鷹尾元、田中真哉、細田和夫、西園朋広、古家直行、北原文章、家原敏郎	2016.03	高密度と低密度の航空機LiDARデータによるスギ材積推定手法の比較分析	日本森林学会大会学術講演集、127:203
高橋正義、古家直行	2016.03	樹木の成長と占有空間の形状による影響ー系統的配置による成長データの解析ー	日本森林学会大会学術講演集、127:231

## VI. 資料

### 1. 会議

会議名	開催日	主催	開催場所
研究所会議	年3回 (5・11・3月)	本所 総合調整室	森林総合研究所
北海道支所運営連絡会	週1回	北海道支所	北海道支所
北海道支所運営会議	月2回	北海道支所	北海道支所
庶務課長等会議	27.11.24～11.25	本所総務部	森林総合研究所
北海道支所業務報告会	27.12.2	北海道支所	北海道支所
北海道支所研究評議会	28.2.24	北海道支所	札幌市男女共同参画センター
研究評議会	27.11.5	本所企画部	森林総合研究所
研究推進評価会議	28.3.3	本所企画部	森林総合研究所

#### (林業研究開発推進ブロック会議)

林業研究・技術開発推進ブロック会議(北海道ブロック)	27.9.25	林野庁 北海道支所	かでの2・7(札幌市)
----------------------------	---------	--------------	-------------

#### (林業試験研究機関連絡協議会)

北海道林業林産試験研究機関連絡協議会情報連絡部会	27.6.3	北海道支所	北海道支所
北海道林業林産試験研究機関連絡協議会研究専門部会	27.7.29	北海道支所	北海道支所
北海道林業林産試験研究機関連絡協議会総会	27.8.24	北海道支所	道総研林業試験場

#### (推進会議及びプロジェクト関連会議)

交付金プロジェクト「トマツ更新」推進評価会議	28.1.28	北海道支所	北海道支所
農林水産技術会議実用技術開発事業「伐採造林システム」推進会議	27.12.8	北海道支所	北海道支所

#### (林業試験研究機関連絡協議会)

北海道国有林森林・林業技術協議会	28.1.13	北海道森林 管理局 北海道支所 北海道育種場 札幌水源林 整備事務所	北海道育種場
------------------	---------	---	--------

## 2. 諸行事

年 月 日	行 事
27.5.16	一般公開 開催(北海道支所・北海道育種場・札幌水源林整備事務所)
27.5.27	北海道大学大学院農学院施設見学
27.7.24	天然更新の活用現地検討会
27.7.30～31	わくわく夏休み子ども見学デー～体験しよう！食と農林水産の世界～ (主催：北海道農政事務所) 出展
27.8.5	2015サイエンスパーク(主催：北海道) 出展
27.10.15	北海道地域研究成果発表会 開催(北海道支所・北海道育種場・札幌水源林整備事務所)
27.11.17	伐採・造林一貫システム講演会及び現地検討会開催
28.2.16	公開シンポジウム「前進する北の林業－先進機械による伐採・造林一貫システム－」開催

## 3. その他の諸会議

会 議 名	開催日	主 催	出 席 者
平成27年度北海道地区官庁施設保全連絡会議	27.6.17	北海道開発局	渡邊 謙一

#### 4. 職員の研修・講習

研修・講習名	期間	主催	受講者
平成27年度情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会	27.6.26	北海道管区行政評価局	佐藤 正人
第30回えせ同和行為対策関係機関連絡会	27.6.29	札幌法務局	坂上 勉
第30回えせ同和行為対策関係機関連絡会	27.6.29	札幌法務局	横濱 大輔
平成27年度官公需確保対策地方推進協議会	26.9.3	北海道経済産業局	吉田 厚
平成27年度倫理制度説明会	27.9.10	人事院北海道事務局	横濱 大輔
平成27年度服務・懲戒制度説明会、職員団体制度説明会及び再就職等規制説明会	27.9.11	人事院北海道事務局	坂上 勉
平成27年度服務・懲戒制度説明会、職員団体制度説明会及び再就職等規制説明会	27.9.11	人事院北海道事務局	佐藤 正人
防火研修会	27.9.16	札幌豊平区防火管理者協議会	坂上 勉
第43回北海道地区係長研修	27.10.13～16	人事院北海道事務局	佐々木卓磨
平成27年度森林総合研究所新規採用者研修	27.10.20～23	森林総合研究所	中西 敦史
平成27年度英語研修	27.10.27～12.25	WORDWISE外国語教室	北村 系子
平成27年度英語研修	27.10.27～12.28	WORDWISE外国語教室	津山幾太郎
平成27年度行政管理、評価・監査北海道セミナー	27.11.17	北海道管区行政評価局	横濱 大輔
平成27年研究プロジェクト企画研修	27.11.24～25	森林総合研究所	鳴瀬 拓也
平成27年研究プロジェクト企画研修	27.11.24～25	森林総合研究所	石橋 靖幸
平成27年度政策評価に関する統一研修	27.12.4	北海道管区行政評価局	横濱 大輔
平成27年度英語研修	27.12.22～28.2.26	WORDWISE外国語教室	石原 誠
平成27年度英語研修	27.12.22～28.2.26	WORDWISE外国語教室	古家 直行

5. 受託出張 (68件)

用務	日程	依頼者	用務先	氏名
「森林マルチエンジニア養成アドバンススクール～森林社会の多様性への造詣と作業オペレーション技術の研鑽～」講師	27.5.18	岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター	岩手大学図書館2階(盛岡市上田3-18-8)	佐々木 尚三
共同研究「保護地域制度が周辺地域の生業変化や資源化に及ぼす影響—持続可能な地域発展における規制のあり方—」調査	27.5.1～5.2	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館長 久留島 浩	宮城県大崎市鳴子温泉鬼首地区	八巻 一成
愛媛県有害鳥獣ハンター養成塾におけるの講演	27.6.7	愛媛県農林水産部長	愛媛県男女共同参画センター(松山市山越町450番地)	松浦 友紀子
共同研究プロジェクト「持続的林業1」の衛星データを活用した課題に関する打合せ会議(第2回)出席	27.5.20～5.21	国立研究開発法人国際農林水産業研究センター 理事長 岩永 勝	国立研究開発法人国際農林水産業研究センター共同研究棟6階(茨城県つくば市大わし1-1)	古家 直行
平成27年度認定鳥獣捕獲等事業者制度における講習会の講師	27.5.22	環境省自然環境局野生生物課長	TKP札幌駅カンファレンスセンター(札幌市北区北7条西2丁目9)	松浦 友紀子
西興部村猟区管理運営委員会出席および西興部村のシカ個体群に関する情報提供	27.5.25	特定非営利活動法人 西興部村猟区管理協会 会長 大澤 安廣	西興部村役場(紋別郡西興部村字西興部100番地)	松浦 友紀子
中小製材業に関する研修会の講師	27.6.3	独立行政法人農林漁業信用基金 理事長 堤 芳夫	独立行政法人農林漁業信用基金(東京都千代田区内神田1-1-12)	嶋瀬 拓也
回共同研究「保護地域制度が周辺地域の生業変化や資源化に及ぼす影響」第1回研究会 出席	27.6.28～6.29	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市城内町117)	八巻 一成
釧路湿原右岸堤防における捕獲手法ワーキンググループ出席	27.6.15～6.16	学校法人酪農学園大学 酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類長 田 剛司	達古武オートキャンプ場(釧路郡釧路町達古武65-2)、釧路市合同庁舎(釧路市幸町10丁目3番地)	松浦 友紀子
平成27年度第1回「沖縄らしいみどりを守ろう事業」研究担当者会議出席	27.7.28	株式会社沖縄環境分析センター・日本工営株式会社共同企業体	沖縄県市町村自治会館(沖縄県那覇市旭町116-37)	牧野 俊一
平成27年度第1回「沖縄らしいみどりを守ろう事業」保全対策検討委員会出席	27.7.28	株式会社沖縄環境分析センター・日本工営株式会社共同企業体	沖縄県市町村自治会館(沖縄県那覇市旭町116-37)	牧野 俊一
奥尻島線ブナ林の現地検討会出席	27.7.27～7.28	北海道建設部	道道奥尻島線(奥尻町松江地区)	北村 系子
環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクトS-14「気候変動の緩和策と適応策の統合的戦略研究」第1回全体会合出席	27.6.29～6.30	国立大学法人横浜国立大学環境情報研究院 教授 松田 裕之	東京大学武田先端知ビル武田ホール(東京都文京区本郷7-3-1)	津山 幾太郎

用 務	日 程	依 頼 者	用 務 先	氏 名
占冠村猟区管理運営委員会(第1回)出席	27.7.8	占冠村長 中村博	占冠村総合センター (占冠村役場庁舎内)2階 視聴覚室	松浦 友紀子
J-stageへの対応に関する打ち合わせ、林業経済学会理事会出席	27.7.16～7.19	林業経済学会	林業経済研究所(東京都文京区湯島)、 キャンパスイノベーションセンター(東京都港区田町)	八巻 一成
道総研環境科学研究センター・ワークショップ2015における講演	27.8.6	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構環境・地質研究本部環境科学研究センター 所長 高田 純	道総研プラザ1階セミナー室(札幌市北区北19条西11丁目)	松浦 友紀子
平成27年度第1回北海道森林審議会 出席	27.8.11	北海道知事 高橋はるみ	第2水産ビル(札幌市中央区北3条西7丁目)	牧野 俊一
平成27年度知床世界自然遺産地域科学委員会第1回エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ出席	27.8.27	知床世界自然遺産地域科学委員会エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ 座長 梶 光一	釧路地方合同庁舎(釧路市幸町10-3)	牧野 俊一
低コスト育林ワーキング会議出席	27.8.31	北海道大学大学院農学研究院長 横田 篤	北海道大学農学部	佐々木 尚三
平成27年度技術開発課題現地検討会出席	27.9.7～9.8	北海道森林管理局長	上川南部署管内(南富良野町)、上川中部署管内(美瑛町)	佐々木 尚三
平成27年度沖縄らしいみどりを守ろう事業ダイゴヒメバチ天敵防除専門委員会及び現地検討会及び天敵防除技術講演会出席	27.9.8～9.10	沖縄県知事 翁長雄志	沖縄県市町村自治会館(沖縄県那覇市旭町116-37)、那覇市ぶんかテンプス館(沖縄県那覇市牧志3-2-10)	牧野 俊一
平成27年度森林総合監理士育成研修事業北海道ブロックにおける実践研修 講師	27.10.20 ～10.22	林野庁森林整備部研究指導課 課長 池田 直弥	函館市内の国有林等	佐々木 尚三
平成27年度(課題別研修)「地域住民の参加による多様な森林保全」コース 講師	27.10.7	一般社団法人海外林業コンサルタント協会 会長 小澤 普照	森林総合研究所北海道支所	佐々木 尚三
平成27年度(課題別研修)「地域住民の参加による多様な森林保全」コース 講師	27.10.7	一般社団法人海外林業コンサルタント協会 会長 小澤 普照	森林総合研究所北海道支所	石橋 聡
平成27年度(課題別研修)「地域住民の参加による多様な森林保全」コース 講師	27.10.8	一般社団法人海外林業コンサルタント協会 会長 小澤 普照	JICA北海道(札幌市白石区本通16丁目南4-25)	関 剛
平成27年度(課題別研修)「地域住民の参加による多様な森林保全」コース 講師	27.10.8	一般社団法人海外林業コンサルタント協会 会長 小澤 普照	JICA北海道(札幌市白石区本通16丁目南4-25)	松浦 友紀子

用務	日程	依頼者	用務先	氏名
中小製材業に関する研修会 講師	27.8.5	独立行政法人農林漁業信用基金 理事長 堤 芳夫	独立行政法人農林漁業信用基金(東京都千代田区内神田1-1-12)	嶋瀬 拓也
洞爺湖中島エゾシカ対策協議会出席	27.9.9	洞爺湖中島エゾシカ対策協議会 会長 洞爺湖町長 真屋 敏春	洞爺湖町役場	松浦 友紀子
平成27年度道内林業技術研修会 講師	27.10.1~10.2	北海道水源林造林協議会 会長 池部 彰	とちぎプラザ(帯広市西4条南13-1)、池田町、浦幌町	佐々木 尚三
共同研究「保護地域制度が周辺地域の生業変化や資源化に及ぼす影響」に係る現地調査、研究会出席、森林資源調査、聞き取り調査、展示巡見	27.9.19~9.22	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館長 久留島 浩	東京大学山中寮内藤セミナーハウス(山梨県南都留郡山中湖村平野506-296)、富士山麓森林(山梨県南都留郡山中湖村、富士吉田市)、富士癒しの森研究所(山梨県南都留郡山中湖村山中341-2)ほか	八巻 一成
第1回北海道地区広域原木流通協議会出席	27.9.25	北海道地区広域原木流通協議会 会長 高篠 和憲	札幌全日空ホテル(札幌市中央区北3条西1丁目)	嶋瀬 拓也
北海道新十津川町における枯死木の原因についての現地調査	27.9.30	三田農林株式会社 取締役社長 三田 林太郎	北海道新十津川町 字幌加	山口 岳広
平成27年度プロジェクト内部検討会への出席・報告ならびにリモートセンシングデータを活用した課題に関する打合せ	27.11.3~11.5	国立研究開発法人国際農林水産業研究センター 理事長 岩永 勝	国立研究開発法人国際農林水産業研究センター共同研究棟(茨城県つくば市大わし1-1)	古家 直行
町主催のトークイベントへの出演	27.10.12	中川町長 川口 精雄	紀伊國屋書店札幌本店(札幌市中央区北5条西5丁目)	嶋瀬 拓也
北海道森林審議会林地保全部会における現地調査・視察及び審議への出席	27.10.21~10.22	北海道知事 高橋 はるみ	河西郡芽室町上美生の農用地、十勝総合振興局(帯広市東3条南3丁目)ほか	牧野 俊一
野幌自然環境モニタリング現地検討会(第21回)出席	27.10.27	北海道森林管理局 長	野幌国有林、野幌森林公園ふれあい交流館レクチャールーム	平川 浩文
林野庁補助事業「木材利用ポイント事業」地域材利用状況に関する調査事業の有識者委員会出席	27.10.27	株式会社綜研情報工芸 代表取締役 齊藤 保明	砂防会館(東京都千代田区平河町2-7-5)	嶋瀬 拓也
平成27年度第2回北海道環境審議会地球温暖化対策部会出席	27.10.13	北海道環境審議会地球温暖化対策部会長 山中 康裕	かでる2.7(札幌市中央区北2条西7丁目)	牧野 俊一
第71回札幌市緑の審議会出席	27.11.5	札幌市緑の審議会会長 近藤 哲也	STV北2条ビル(札幌市中央区北2条西2丁目)	関 剛

用 務	日 程	依 頼 者	用 務 先	氏 名
森林計画樹立に係る現地意見交換会出席	27.11.5	北海道森林管理局 長	上川南部森林管理 署管内 3林班い・ ろ小班(南富良野 町)	石橋 聡
松くい虫被害現地検討会及び普及啓発セ ミナーでの講演	27.11.19 ～11.20	株式会社沖縄環境 分析センター・日本 工営株式会社共同 企業体	沖縄県大宜味村、 国頭村、東村、名護 市、本部町、今帰仁 村	牧野 俊一
新人ハンターセミナー(基礎編) 講師	27.11.13 ～11.15	特定非営利活動法 人 西興部村猟区 管理協会 会長 中原 慎一	西興部村内(ホテル 森夢、公民館、協会 事務所ほか)	松浦 友紀子
平成27年度宗谷流域森林・林業活性化協 議会幹事会(メクマ地区国有林現地検討 会) 出席	27.11.17	宗谷森林管理署長	宗谷総合振興局、メ クマ地区国有林現 地	関 剛
平成27年度重要生態系監視地域モニタ リング推進事業(陸生鳥類調査) モニタ リング1000(陸生鳥類調査) 検討会出席	27.12.25	環境省自然環境局 生物多様性セン ター長	公益財団法人日本 野鳥の会(東京都品 川区西五反田3-9 -23)	佐藤 重穂
北海道森林管理局より受託した「天然更新 を活用したトドマツ林造成技術の実証事業 に関する調査等業務」における現地指導	27.12.3～12.4	株式会社さっぽろ 自然調査館 代表 取締役 渡邊 修	北海道標茶町(雷別 国有林)	石橋 聡
平成27年度第1回北海道森林管理局技 術開発委員会 出席	27.12.16	北海道森林管理局 長	北海道森林管理局	佐々木 尚三
平成27年度第2回北海道森林審議会 出 席	27.12.16	北海道知事 高橋 はるみ	第2水産ビル(札幌 市中央区北3条西7 丁目)	牧野 俊一
トドマツ人工林天然更新実証事業に係る 現地指導	28.1.18～1.19	北海道森林管理局 長	根釧西部森林管理 署管内国有林(北海 道標茶町)	石橋 聡
平成27年度北の国・森林づくり技術交流 発表会における講演	28.2.5	北海道森林管理局 長	国立大学法人北海 道大学学術交流会 館(札幌市北区北8 条西5丁目)	溝口 康子
平成27年度北の国・森林づくり技術交流 発表会における審査委員	28.2.4～2.5	北海道森林管理局 長	国立大学法人北海 道大学学術交流会 館(札幌市北区北8 条西5丁目)	牧野 俊一
歴博映像フォーラム10「屋久島の森に眠る 人々の記憶」 講師	28.2.19～2.20	大学共同利用機関 法人人間文化研究 機構 国立歴史民 俗博物館長 久留 島 浩	新宿明治安田生命 ホール(東京都新宿 区西新宿1-9-1)	八巻 一成
学生実習における銃器を使用した専門的 な野生鳥獣捕獲実習、衛生管理手法に基 づくエゾシカ解体実習、ビームライフル実 習 講師	28.1.22～1.24	学校法人酪農学園 酪農学園大学 農食環境学群 環 境共生学類長 吉 田 剛司	北海道紋別郡西興 部村内	松浦 友紀子
平成27年度第3回北海道森林審議会林 地保全部会 出席	28.1.25	北海道知事 高橋 はるみ	北海道庁(札幌市中 央区北3条西6丁 目)	牧野 俊一

用務	日程	依頼者	用務先	氏名
平成27年度保護林管理強化対策事業検討委員会 出席	28.2.15	北海道森林管理局長	北海道森林管理局 (北海道札幌市中央区宮の森3条7丁目70番)	牧野 俊一
第72回札幌市緑の審議会 出席	28.2.16	札幌市長 秋元克広	STV北2条ビル(札幌市中央区北2条西2丁目)	関 剛
持続的山村振興に関する研究会 出席	27.12.26 ~12.27	弘前大学農学生命科学部教授 藤崎浩幸	岩手大学農学部連合農学研究科棟セミナー室(岩手県盛岡市上田3丁目18-8)	八巻 一成
野幌自然環境モニタリング検討委員会(第22回) 出席	28.2.9	北海道森林管理局長	野幌森林公園自然ふれあい交流館レクチャールーム	平川 浩文
森林施業プランナー・森林総合監理士等スキルアップ実証講座における講演	28.1.20	国立大学法人北海道大学大学院農学研究院院長 横田篤	旭川市民文化会館(旭川市7条通9丁目50番地)	佐々木 尚三
平成27年度エゾシカ捕獲等モデル事業における現地視察及び技術指導	28.1.28~1.29	北海道環境生活部環境局エゾシカ対策課長	北海道えりも町(目黒・襟裳岬地域)	松浦 友紀子
平成27年度エゾシカ捕獲等モデル事業における現地視察及び技術指導	28.2.2	北海道環境生活部環境局エゾシカ対策課長	北海道宗谷沿岸地域(稚内市、豊富町)	松浦 友紀子
共同研究「保護地域制度が周辺地域の生業変化や資源化に及ぼす影響」研究会 出席	28.1.30~1.31	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館長 久留島 浩	国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市城内町117)	八巻 一成
第2回北海道地区広域原木流通協議会出席	28.2.17	北海道地区広域原木流通協議会 会長 高篠 和憲	札幌全日空ホテル(札幌市中央区北3条西1丁目)	嶋瀬 拓也
林野庁補助事業「木材利用ポイント事業」地域材利用状況に関する調査事業(Ⅱ)木材利用ポイント事業に関する効果検証調査業務)の有識者委員会 出席	28.2.16	株式会社綜研情報工芸 代表取締役 齊藤 保明	砂防会館(東京都千代田区平河町2-7-5)	嶋瀬 拓也
平成27年度第2回「沖縄らしいみどりを守ろう事業」研究担当者会議及び保全対策検討委員会 出席	28.2.25~2.27	株式会社沖縄環境分析センター・日本工営株式会社共同企業体	沖縄県市町村自治会館(沖縄県那覇市旭町116-37)	牧野 俊一
地域管理経営計画等に関する懇談会 出席	28.3.15	北海道森林管理局長	北海道森林管理局 (北海道札幌市中央区宮の森3条7丁目70番)	牧野 俊一
平成27年度第2回北海道森林管理局技術開発委員会 出席	28.3.16	北海道森林管理局長	北海道森林管理局 (北海道札幌市中央区宮の森3条7丁目70番)	佐々木 尚三
新人ハンターセミナー(応用編) 講師	28.3.25~3.27	特定非営利活動法人 西興部村猟区管理協会 会長 中原 慎一	西興部村内(ホテル森夢、公民館、協会事務所ほか)	松浦 友紀子
平成27年度第4回北海道森林審議会林地保全部会 出席	28.3.31	北海道知事 高橋 はるみ	北海道庁別館(札幌市中央区北3条西7丁目)	牧野 俊一

## 6. 外国出張(8件)

用務	日程	経費負担先	行先	氏名
講演会および研究交流	27.4.7 ~ 27.4.15	中国科学院 成都山地災害与環境研究所	中国	韓 慶民
ブナ林堅果豊凶メカニズムの解明:花芽形成期における資源の需給バランスの役割」の研究成果を第10回ブナ国際研究集会において研究発表	27.8.31 ~ 27.9.7	運営費交付金	韓国	韓 慶民
「緩和策と適用策に資する森林生態系機能とサービスの評価」における共同研究者との打合せおよび現地調査	27.10.10 ~ 27.10.17	特殊法人等 受託事業費	ロシア	津山幾太郎
「開花遺伝子発現量と土壌・植物養分条件の統合分析による一斉開花機構の解明」に関する調査研究打合せ	27.12.13 ~ 27.12.17	科学研究費 補助金	マレーシア	韓 慶民
タイにおける持続的林業振興のための森林資源の利活用技術の高度化に関するワークショップ」の出席ならびに現地検討会への参加	27.12.13 ~ 27.12.19	国際農林水 産業研究セ ンター	タイ	古家 直行
JIRCAS-FRIM ワークショップ参加、講演ならびに CP 機関との今中期の総括に係る研究打合せ	28.1.26 ~ 28.1.29	国際農林水 産業研究セ ンター	マレーシア	佐々木尚三
「リモートセンシングによるチーム林分材積推定」に係る現地検証作業ならびに技術普及セミナー開催	28.2.27 ~ 28.3.9	国際農林水 産業研究セ ンター	タイ	古家 直行
「適応策評価のための森林生態系適域推計モデルの開発」における現地調査および研究打ち合わせ	28.1.31 ~ 28.2.11	特殊法人等 受託事業費	ニュージー ランド	津山幾太郎

7. 研修生の受入

① 受託研修生(0名)

氏名	所属	研修期間	研修内容	受入担当
なし				

② 海外研修生(14名)

研修名:JICA集団研修「地域住民の参加による多様な森林保全」コース	
日程:27.10.7~10.8	
(国名)	(人数)
ブルキナファソ	1
エチオピア	1
インド	1
ケニア	2
ラオス	2
マラウイ	1
ミャンマー	1
ネパール	2
パプアニューギニア	1
タイ	1
東ティモール	1

8. 来訪者

①支所視察・見学・利用

来訪日	来訪者	人数	目的	担当者
27. 5. 11	退職校長会札幌豊平支部	15	施設見学	産学官連携推進調整監
27. 5. 11	西岡C I シニアクラブ	35	施設見学	連絡調整室
27. 5. 28	環境差ポーターズ「三次郎の会」	8	施設見学	連絡調整室
27. 6. 9	札幌科学技術専門学校	12	環境調査実習	連絡調整室
27. 6. 18～8. 31	東海大学北海道キャンパス生物学部生物学科	2	昆虫類の生息及び飼育調査	連絡調整室
27. 6. 24～7. 2	鳴門教育大学大学院学校教育研究科	1	昆虫類の試料採集	森林生物研究グループ
27. 7. 21	豊平区保健センター	20	ノルディックウォーキング	連絡調整室
27. 7. 22	さわやかノルディック・ウォーク倶楽部	15	ノルディックウォーキング	連絡調整室
27. 7. 23～31	京都大学生態学研究センター	2	昆虫類の調査及び試料採集	森林生物研究グループ
27. 9. 24	豊平公園緑のセンター	5	樹木および自然植生の現地研修	連絡調整室
27. 9. 26	NPO法人北海道自由が丘学園月寒スクール	18	森林観察及び自然体験	連絡調整室
27. 10. 1	滋賀県立長浜北西高等学校	87	施設見学	産学官連携推進調整監他
27. 10. 2	広島県立西条農業高等学校	11	施設見学	産学官連携推進調整監他
27. 10. 4	西岡地区町内会連合会	20	ノルディックウォーキング	連絡調整室
27. 10. 28	自然ウォッチングセンター	20	自然観察会	連絡調整室
27. 10. 28	札幌市立西岡小学校	74	樹木園散策	連絡調整室

②実験林利用者

利用期間	利用者	人数	目的
27. 4. 1～11. 15	川路則友他	2	森林性鳥類の生態調査および鳥類標識調査
27. 4. 1～28. 3. 31	(独)北海道農業研究センター	1	札幌の境界層の発達を画像（スモッグや雲の形成等）により捕捉
27. 9. 10～10. 12	札幌キノコの会第六支部	16	きのこの採集
27. 10. 20	札幌科学技術専門学校	12	環境調査実習

③標本館来館者数

	一般	学生	国	都道府県	林業団体	外国	計
4月	566	5	0	0	0	0	571
5月	424	8	0	0	0	0	432
6月	102	8	8	0	0	0	118
7月	89	2	5	0	17	15	128
8月	72	9	2	0	0	0	83
9月	125	13	0	2	0	0	140
10月	229	87	0	0	0	16	332
11月	58	2	7	0	0	0	67
12月	18	1	0	0	0	0	19
1月	29	3	0	0	0	0	32
2月	18	0	0	0	0	0	18
3月	7	0	0	0	0	0	7
合計	1,737	138	22	2	17	31	1,947

9. 広報活動

①新聞等

内 容 等	掲載日	社名
北海道支所一般公開開催	27. 5. 15	朝日新聞
スズタケ 希少な開花 苫小牧の山道「数十年に一度」	27. 6. 15	北海道新聞
数十年に1度の神秘 浦河でササ開花	27. 6. 17	北海道新聞
元気のひけつ「2度目の刺されに注意～秋まで危険、ハチから身を守るには～」	27. 9. 19	朝日新聞

②テレビ放送

内 容 等	放送日	局名
幸せ!ボンビーガール	27. 7. 14	日本テレビ
にっぽん百名山	27. 9. 28	NHK BS
ザ!鉄腕!DASH!!	27. 10. 25	日本テレビ
ワイルドライフ	28. 3. 28	NHK BS

③定期刊行物

内 容 等	ISSN	発行日	発行部数
平成28年版北海道支所年報	2187-8730	29.3	オンライン
北の森だよりVol. 15	1882-9627	28.1.15	900
平成27年度森林総合研究所北海道地域研究成果発表会 発表集			
1. 樹木に肥料を撒くと成長は良くなるか？			
2. マスティング（一斉開花）の謎と意義			
3. 花が咲かねば苗木ができないー樹木の着花をコントロールするー			
4. 空から森林を測る			
研究紹介			
・エゾマツとトドマツの結実を開花から予測する			
活動報告			
・平成27年度一般公開を開催			
・伐採・造林一貫システムの現地検討会と講演会を開催			
・天然更新の活用現地検討会を開催			

10. 図書刊行物の収数

区 分	和 書			洋 書			合 計
	購 入	寄 贈	計	購 入	寄 贈	計	
単行書	3冊	35冊	38冊	1冊	1冊	2冊	40冊
逐次刊行物	45誌	220誌	265誌	17誌	8誌	25誌	290誌

11.固定試験地・収穫試験地

①固定試験地

区分:A 森林総研主体、A' 森林総研・道局共同、B 道局からの依頼

整理番号	試験地名	研究項目	森林管理署	林小班	樹種	面積 ha	設定	終了予	調査	距離 km	担当研究グループ	区 分
							年度	定年度	年度			
札幌4	苫小牧植生調査試験地	林冠破壊による植生の変化 (風害後の遷移)	胆振東部	1301、い-3 1463、い	トドマツ アカエゾマツ エゾマツ ダケカンバ	1.67 18.74	32	H30	不定期	97.6	森林育成研究グループ	A
札幌7	札幌カラマツ産地試験地	カラマツ産地試験	石狩	41、な・ね	カラマツ	5.84	34	H31	不定期	28.9	森林育成研究グループ	A
札幌16	利根別トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	41、は	トドマツ	0.9	36	H33	10年毎	49.6	北方林管理研究グループ	A
札幌17	万字カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	18、ろ	カラマツ	1.1	41	H46	5年毎	75.1	北方林管理研究グループ	A
札幌32	ヤチダモ人工林の構造と生長試験地 (3)(4)	長伐期林分情報の整備方式の開発の予備	石狩	41、は-20 33	ヤチダモ	1.14 1.13	30 25	H47	5年毎	29.9	北方林管理研究グループ	A
札幌51	札幌トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	石狩	58、ぬ 64、た	トドマツ	3.94	42	H29	不定期	39.4	森林育成研究グループ	A
札幌54	空沼天然林施設試験地(1)(2)	トドマツ・エゾマツ天然林の生長予測	石狩	1128、は い-1 と 1129、れ ほ へ	トドマツ エゾマツ 広葉樹	2.16 0.99	43 44	H30	5年毎	24.6	北方林管理研究グループ	A
札幌61	苫小牧広葉樹試験地	落葉広葉樹林の更新	胆振東部	1205、い	広葉樹類	43.37	50	H31	不定期	80	森林育成研究グループ	A'
旭川1	枝幸カラマツ産地試験地	カラマツ産地試験	宗谷	6、い	カラマツ	5	34	H32	不定期	403.9	森林育成研究グループ	A
旭川2	大雪植生調査試験地	林冠破壊による植生の変化 (風害後の遷移)	上川中部	260、ろ 276、い 290、い・ろ 320、い・ろ	未立木	1.5	31	H30	不定期	248.4	森林育成研究グループ	A
旭川3	林冠破壊による土壌の変化試験地	森林伐採に伴う設置環境変動と堆積腐植分解との関係	上川中部	260、ろ 276、い 290、い・ろ 320、い・ろ	未立木	1.5	31	H30	不定期	248.4	植物土壌系研究グループ	B
旭川5	雄信内トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	留萌北部	50、い	トドマツ	0.56	38	H47	10年毎	329.4	北方林管理研究グループ	A
旭川8	上川トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	上川中部	141、い	トドマツ	4.47	42	H29	不定期	201.4	森林育成研究グループ	A
旭川9	浜頓別トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	宗谷	1010、ろ・は	トドマツ	9.02	42	H29	不定期	400.8	森林育成研究グループ	A
旭川11	大雪原生林植物群落保護林調査試験地	原生林の更新動態	上川中部	254 260	トドマツ アカエゾマツ エゾマツ	2	H11	定めず	不定期	248.4	森林育成研究グループ	A
旭川12	士別天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	上川北部	397、い	トドマツ エゾマツ	3.26	H13	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
旭川13	幾寅天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	上川南部	141、ろ	トドマツ エゾマツ	4	H13	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
北見4	エゾマツ・トドマツ天然林固定標準地	林分成長量の推定及び予測手法に関する研究	網走中部	1041、い	エゾマツ トドマツ 広葉樹	1.96	33	H30	5年毎		北方林管理研究グループ	A
北見6	丸瀬布カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	網走西部	1108、う	カラマツ	1.09	42	H46	5年毎	266.5	北方林管理研究グループ	A
北見7	佐呂間トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	網走中部	90、む	トドマツ	4.53	42	H29	不定期	335.4	森林育成研究グループ	A
北見8	津別天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	網走南部	2205、ろ	トドマツ エゾマツ	2.08	H15	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
帯広2	清水カラマツ産地試験地	カラマツ産地試験	十勝西部	15、い	カラマツ	4.67	35	H32	不定期	240.9	森林育成研究グループ	A
帯広4	ベケレトドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	根釧西部	77、ろ	トドマツ	1	40	H38	10年毎	482.3	北方林管理研究グループ	A
帯広9	根室トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	根釧東部	1024、い	トドマツ	4.32	44	H29	不定期	500	森林育成研究グループ	A
帯広10	弟子屈天然林成長試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	根釧西部	47、い	トドマツ エゾマツ	8	H15	H34	5年毎		北方林管理研究グループ	A
函館8	函館トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	檜山	130、へ と ち	トドマツ	4.43	42	H29	不定期	319.3	森林育成研究グループ	A

②収穫試験地

整理番号	試験地名	研究項目	森林管理署	林小班	樹種	面積 ha	設定	終了予	調査	担当研究グループ	区 分
							年度	定年度	年度		
札幌16	利根別トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	41、は	トドマツ	0.9	S36	H33	10年毎	北方林管理研究グループ	A
札幌17	万字カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	18、ろ	カラマツ	1.1	S41	H46	5年毎	北方林管理研究グループ	A
旭川5	雄信内トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	留萌北部	50、い	トドマツ	0.56	S38	H47	10年毎	北方林管理研究グループ	A
北見6	丸瀬布カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	網走西部	1108、う	カラマツ	1.09	S42	H46	5年毎	北方林管理研究グループ	A
帯広4	ベケレトドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	根釧西部	77、ろ	トドマツ	1	S40	H38	10年毎	北方林管理研究グループ	A

12. 羊ヶ丘実験林の試験林一覧

No.	試験林名	試験項目	林班	樹種	年度	面積 ha	担当
1	針葉樹病害試験林	病害発生情報の収集・解析と突発性病害発生生態の解明	1-に	トドマツ他	48	0.55	森林生物研究グループ
2	野鳥誘致林	キツツキ類の営巣穴の消失過程の解析及び動態把握	1-へ	ナナカマド他	48	0.62	森林生物研究グループ
3	特用樹試験林	成長調査	1-と	キササゲ他	50	0.61	業務係
4	針・広葉樹造成試験林	成長調査	1-ち	イチイ他	H元	0.50	業務係
5	群落構成試験林	北方系天然林における成長及び更新動態の長期モニタリング	2-は～よ	ハイマツ他	48	10.43	森林育成研究グループ
6	針葉樹人工林試験林	成長調査	3-に、 5-へ～ち、 5-ぬ、 6-と	グイマツ他	48	4.95	業務係
7	針葉樹腐朽病害試験林	立木の腐朽・変色を起こす菌類の生態および宿主との相互作用の解明	3-ほ	カラマツ	H3	0.97	森林生物研究グループ
8	広葉樹人工林試験林	成長調査	3-へ、 3-ち～る、 4-ろ、 5-り、 7-に	ミズナラ他	48	6.31	業務係
9	広葉樹人工林試験林	北方林構成樹種の養分の配分・利用特性	3-と	ウダイカンバ	49	0.94	植物土壌系研究グループ
10	土壌環境長期モニタリング試験林	北方林の立地特性と物質循環モデル	4-へ	トマツ他	48	1.62	植物土壌系研究グループ
11	昆虫多様性試験林	昆虫発生情報の収集と解析	4-と	トマツ他	48	3.21	森林生物研究グループ
12	虫害解析試験林	昆虫発生情報の収集と解析	4-ち	トマツ他	48	2.00	森林生物研究グループ
13	生態遷移試験林	森林の更新を制御する因子としてのササの動態及びその被覆の影響の評価	5-ろ、 6-ろ、 6-ほ	ヤマナラシ他	53	21.19	森林育成研究グループ
14	森林気象試験林	北方系落葉広葉樹林の二酸化炭素動態のモニタリング	5-ろ、 6-い～ へ、 8-い ～ろ	ヤマナラシ他	H6	57.13	寒地環境保全研究グループ
15	植栽密度試験林	密度管理技術に基づく長伐期林分の成長・収穫予測の高度化	5-に	アカエゾマツ他	48	5.77	北方林管理研究グループ
16	鳥獣生態調査試験林	キツツキ類の営巣穴の消失過程の解析及び動態把握	6-い、へ	シラカンバ他	H5	14.96	森林生物研究グループ
17	広葉樹用材林施業試験林	天然林における択伐施業計画法の改善	6-は～に	シラカンバ他	53	6.31	北方林管理研究グループ
18	針広混交林造成試験林	樹種の環境適応性の生理的特性の解明と評価	7-い～ろ	シラカンバ他	50	14.95	植物土壌系研究グループ
19	ウダイカンバ植栽試験林	成長調査	8-は	ウダイカンバ	62	1.93	業務係

### 13. 羊ヶ丘の気象

○試験研究の資料として、昭和48年から北海道支所羊ヶ丘観測露場において、気象観測を実施している。

平成27年度の気象概要は以下のとおりである。

1. 今年度は気象観測装置（レーザー積雪深計）の作動不良（落雷）により、6月から3月まで「3. 積雪」は欠測となった。また、3月15日・16日の2日間にレーザー積雪深計の修理を実施したことにより欠測が生じたので、気温等はその2日間を除いて集計した。
2. 目視による初雪は10月25日で、28年3月までに積雪した雪は、4月5日に積雪ゼロとなった。

## 平成27年度 気象年報

北緯 42度59分42秒  
東経 141度23分26秒  
標高 146.5m

### 1. 気温 (°C)

月	平均	最高平均	最低平均	極値最高	起日時	極値最低	起日時
H27. 4	6.8	15.6	0.2	25.5	30 13:27	-2.9	2 3:20
5	12.4	18.8	7.3	27.0	29 13:42	2.9	11 1:03
6	15.1	19.1	8.9	27.0	1 12:52	7.7	5 2:34
7	19.7	24.0	14.2	31.5	12 13:06	9.0	9 3:42
8	20.5	25.6	16.8	33.1	5 11:18	9.4	25 4:35
9	16.3	20.2	10.2	26.6	3 13:45	6.4	30 21:33
10	8.8	13.2	2.0	20.4	18 12:17	0.0	25 13:40
11	3.4	10.8	-3.9	18.0	5 13:35	-10.3	26 4:18
12	-1.1	5.2	-8.7	9.6	3 13:08	-12.8	29 6:40
H28. 1	-5.6	0.1	-9.8	4.8	2 11:17	-16.4	25 6:01
2	-4.2	3.6	-8.9	8.5	13 13:56	-16.0	25 4:27
3	0.0	6.7	-6.4	13.6	18 14:10	-11.2	3 3:53
年	7.7	13.6	1.8	33.1	8/5 11:18	-16.4	1/25 6:01
極値				35.7	1994/8/7 14:10	-22.8	1978/2/17 3:25

2. 降水量 (mm)

3. 積雪 (cm) (×: 欠測値)

月	総量	最大日量	起日	最大1時間量	起日	最大積雪深	起日
H27. 4	71.5	34.0	15	6.5	15	0.19	1
5	40.0	10.5	13	2.5	4	-	-
6	52.5	27.5	3	8.5	3	×	×
7	50.0	13.5	21	8.0	21	×	×
8	100.5	37.0	7	20.5	7	×	×
9	196.0	86.0	2	13.5	2	×	×
10	101.5	18.0	25	4.5	2	×	×
11	116.0	29.0	24	4.0	24	×	×
12	83.5	27.0	17	5.0	17	×	×
H28. 1	35.0	8.0	8	2.5	19	×	×
2	72.0	22.0	29	5.0	29	×	×
3	40.0	7.0	1	2.5	30	×	×
年	958.5	86.0	9/2	20.5	8/7	-	-
最大値の記録 年降水量		最大日降水量	最大1時間降水量		最大積雪深		
最大	1,490.0 (1981)	220.5	51.0		150		
最小	572.0 (2008)	1981/8/23	1979/10/4 3:00		2013/3/11		

4. 風速 (m/sec)

月	平均	最大	風向	起日	最大瞬間	風向	起日
H27. 4	2.1	7.3	SSE	3	19.7	NW	3
5	1.9	7.3	S	2	16.7	S	2
6	1.4	5.9	S	9	17.0	S	9
7	1.2	5.3	SSE	14	14.0	N	7
8	1.2	5.9	S	26	12.7	SW	26
9	1.1	6.4	S	10	18.1	S	27
10	1.6	7.4	N	8	22.6	N	8
11	1.2	5.0	SSE	14	12.9	N	15
12	1.1	6.7	SSE	3	16.5	S	3
H28. 1	0.9	5.0	N	20	13.8	NNW	14
2	1.4	6.0	SSE	14	14.2	W	10
3	1.7	×	×	×	×	×	×
年	1.4	7.4		10/8	22.6		10/8



## VI. 総務

### 1. 沿革

1908年(明41)	6月	北海道庁告示第361号によって、江別村大字野幌志文別に内務省野幌林業試験場が設立された。
1927年(昭2)	9月	庁舎を江別町西野幌に新築し、移転した。
1933年(昭8)	1月	北海道林業試験場と改められた。試験部(育林、利用、科学、保護、気象)、庶務部(庶務、会計、売買)。
1936年(昭11)	10月	木材利用部新設。森林標本館が設置される。 10月7日に昭和天皇陛下が行幸され、本場並びに付属試験林を見学された。
1937年(昭12)	10月	上川森林治水保安試験所が開設された。
1939年(昭14)	8月	釧路混牧林業試験所が開設された。
1940年(昭15)	1月	帝室林野局北海道林業試験場が札幌市豊平に設立された。
1945年(昭20)	8月	野幌試験林の管理経営を札幌営林署に移管。
1947年(昭22)	5月	林政統一により帝室林野局北海道林業試験場と北海道庁所管の北海道林業試験場を合併、林業試験場札幌支場と改められた。
1950年(昭25)	4月	上川、釧路両試験所が、それぞれ試験地と名称が変わる。
	7月	札幌営林局付属「森林有害動物調査所」が札幌支場の野鼠研究室になる。
	12月	木材利用部門は、本場に集中される。
1951年(昭26)	7月	支場を札幌市におき、分室を西野幌におく(経営部、造林部、保護部、庶務課)
1953年(昭28)	10月	野幌の試験設備をすべて札幌市豊平に統合し、北海道支場と改めた。 野幌試験地が開設された。
1954年(昭29)		経営部に牧野研究室新設、調査室が庶務課から分離(昭22新設)、造林部種子研究室が育種研究室に名称変更。
1955年(昭30)		保護部病理昆虫研究室が昆虫、樹病研究室に分離増。
1961年(昭36)	5月	千歳国有林において植樹祭が行われる。昭和天皇・皇后陛下が支場に行幸された。
	11月	所期の目的が達せられたので、上川試験地は廃止された。
1965年(昭40)	4月	経営部牧野研究室が営農林牧野研究室に名称変更。
	9月	所期の目的が達せられたので、釧路試験地は廃止された。
1967年(昭42)	6月	会計課が新設された。
1968年(昭43)	10月	創立60周年となり、祝典を行う。
1969年(昭44)	4月	造林部造林研究室が造林第1、造林第2研究室に分離増。
1970年(昭45)	5月	経営部防災研究室が治山、防災研究室に分離増。
1972年(昭47)	5月	羊ヶ丘への移転計画で実験林設置が決定したため、組織上の野幌試験地は廃止された。 調査室から実験林室が分離増。
1974年(昭49)	10月	庁舎が札幌市豊平区豊平から同市豊平区羊ヶ丘へ移転し、施設の新築、整備が行われた。
1975年(昭50)	4月	保護部野鼠研究室が鳥獣研究室に名称変更。
1976年(昭51)	3月	羊ヶ丘における施設整備を完了した。
	5月	造林部の名称を育林部に変更。
1978年(昭53)	10月	創立70周年となり、一般公開及び祝典を行う。
1981年(昭56)	4月	育林部育種研究室、を遺伝育種研究室に名称変更。
1988年(昭63)	10月	農林水産省組織規程の一部改正により森林総合研究所北海道支所に改組された。育林部造林第1研究室、造林第2研究室はそれぞれ樹木生理研究室、造林研究室となり、経営部経営研究室、営農林牧野研究室はそれぞれ天然林管理研究室、経営研究室となった。また経営部治山研究室と防災研究室は統合減となり、防災研究室となった。
	10月	創立80周年となり、記念植樹を行う。
1998年(平10)	10月	創立90周年となり、一般公開及び祝典を行う。
2001年(平13)	4月	独立行政法人森林総合研究所北海道支所となり、組織が変更となった。部制、会計課及び研究室が廃止され、研究調整官、地域研究官、庶務課長補佐、5チーム長、5研究グループ(森林育成・植物土壌系・寒地環境保全・森林生物・北方林管理)が新設された。
2006年(平18)	4月	実験林室を連絡調整室へ統合し、業務係を新設した。
2007年(平19)	4月	庶務課職員厚生係を庶務係へ統合した。
2008年(平20)	10月	創立100周年となり、記念植樹及び式典を行った。
2010年(平22)	10月	育種調整監を新設した。
2011年(平23)	4月	研究調整監を産学官連携推進調整監に名称変更。
2011年(平23)	9月	11日、札幌市内にて開催の「国際微生物学連合2011会議」ご臨席のためご来道された天皇陛下が、当所標本館をご視察なさる。
2015年(平27)	4月	独立行政法人の3分類により、国立研究開発法人となった。
2016年(平28)	4月	産学官連携推進調整監を産学官民連携推進調整監に、連絡調整室を地域連携推進室に名称変更。

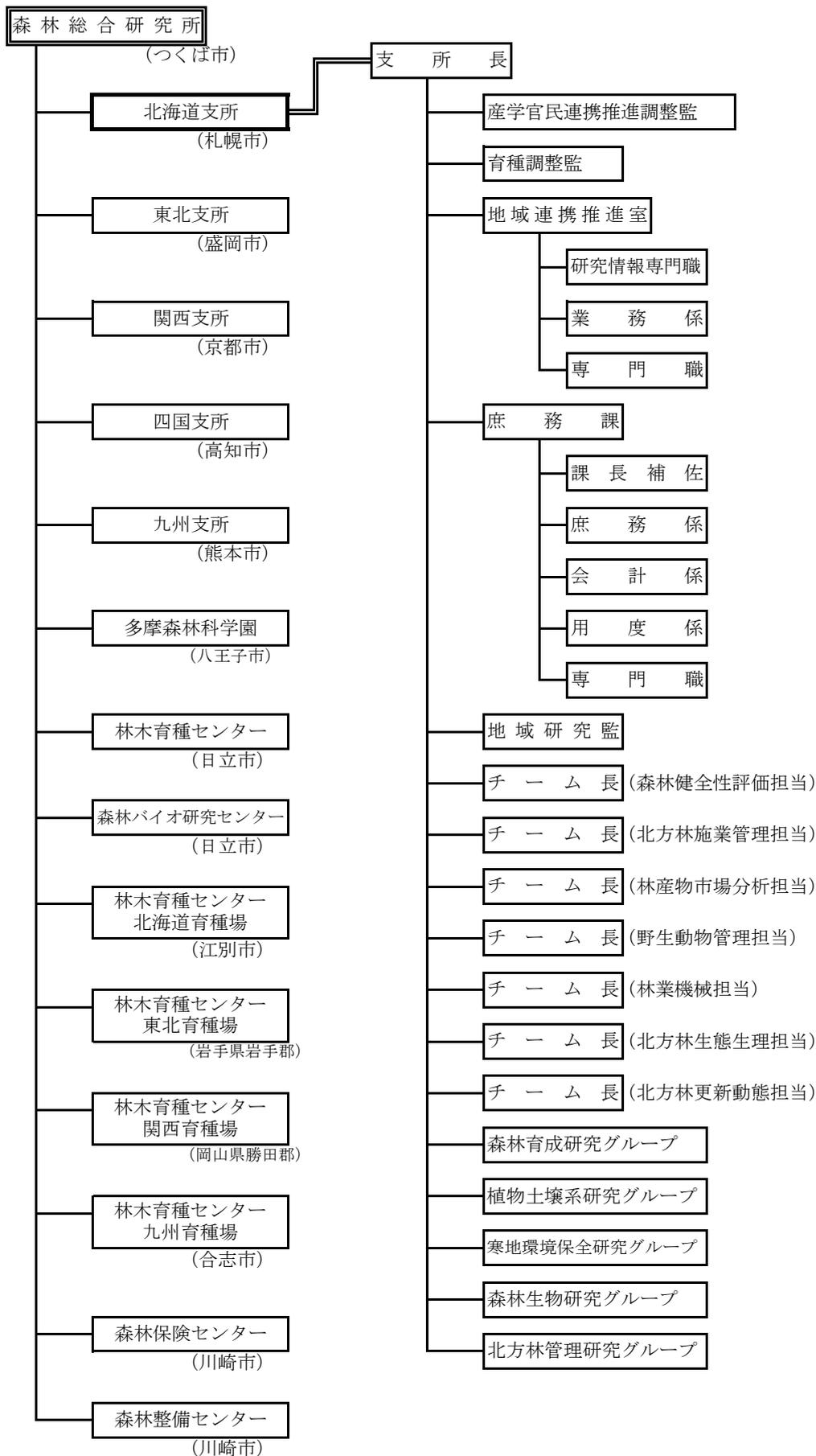
2. 土地・施設

○敷地・建物面積

(単位：㎡)

区 分	土 地 ・ 建 物		備 考
	構 造	面 積	
土 地		1,721,394	
建物敷地		55,668	
樹木園		62,900	
苗畑		38,590	
試験林ほか		1,564,236	
建 物 (延)		7,655	
研究本館	R C - 3	3,893	昭和49年8月10日 建築
特殊実験室	R C - 1	848	昭和48年4月1日 建築
生物環境調節実験施設	R C - 1	377	昭和49年10月12日 建築
野兎生態実験室	R C - 1	142	昭和48年4月1日 建築
鳥類屋外実験室	R C - 1	56	昭和49年10月12日 建築
温室	R - 1	300	昭和49年10月12日 建築
樹病隔離温室	R - 1	135	昭和49年10月12日 建築
日長処理施設	R - 1	129	昭和49年10月12日 建築
苗畑調査実験室	R C - 2	345	昭和48年4月1日 建築
鳥獣飼育場	R - 1	222	平成15年12月18日 建築
標本館	R C - 1	392	昭和49年10月12日 建築
その他		816	

3. 組織（平成28年4月1日現在）



4. 職員の異動（平成27年4月2日～平成28年4月1日）

○採用

発令月日	氏名	新所属	旧所属
27.10.1	中西 敦史	主任研究員 (森林育成研究グループ)	

○採用（再雇用）

発令月日	氏名	新所属	旧所属
28.4.1	佐々木尚三	北方林管理研究グループ 地域連携推進室	

○転入

発令月日	氏名	新所属	旧所属
27.11.1	伊藤 賢介	地域研究監	森林総合研究所 森林昆虫研究領域長
27.11.1	佐藤 重穂	森林生物研究グループ長	四国支所 森林保全研究グループ長
28.4.1	松本 光朗	支所長	森林総合研究所 研究コーディネータ
28.4.1	矢部 恒晶	産学官民連携推進調整監	九州支所 森林動物研究グループ長
28.4.1	山田 健	チーム長（林業機械担当）	森林総合研究所 林業工学研究領域チーム長
28.4.1	北尾 光俊	チーム長（北方林生態生理担当）	森林総合研究所 植物生態研究領域樹木生理研究室長
28.4.1	伊東 宏樹	チーム長（北方林更新動態担当）	森林総合研究所 森林植生研究領域群落動態研究室長
28.4.1	永光 輝義	森林育成研究グループ長	森林総合研究所 企画部研究企画科主任研究員

○転出

発令月日	氏名	新所属	旧所属
27.11.1	尾崎 研一	森林総合研究所 森林昆虫研究領域長	森林生物研究グループ長
27.11.1	飯田 滋生	九州支所 地域研究監	森林育成研究グループ長
28.4.1	韓 慶民	森林総合研究所 植物生態研究領域チーム長	チーム長（CO2収支担当）

○退職（定年）

発令月日	氏名	新所属	旧所属
28.3.31	牧野 俊一		支所長
28.3.31	佐々木尚三		産学官連携推進調整監

5. 職員名簿（平成28年4月1日現在）

支所長	研究職	松本 光朗			
産学官民連携推進調整監	研究職	矢部 恒晶	森林育成研究グループ長	研究職	永光 輝義
育種調整監（併任）	一般職	今井 啓二	主任研究員	〃	北村 系子
		（林木育種センター北海道育種場長）	〃	〃	関 剛
			〃	〃	津山幾太郎
			〃	〃	中西 敦史
地域連携推進室長	一般職	室谷 邦彦			
研究情報専門職	〃	山本 健一	植物土壌系研究グループ長	研究職	相澤 州平
専門職	〃	寺田 絵里	主任研究員	〃	上村 章
業務係長	〃	佐々木卓磨	〃	〃	橋本 徹
係 員	技術専門職	長澤 俊光	〃	〃	伊藤江利子
再雇用	研究専門員	平川 裕文	〃	〃	原山 尚徳
再雇用（併任）	研究専門員	佐々木尚三	〃	〃	
庶務課長	一般職	坂上 勉	寒地環境保全研究グループ長	研究職	山野井克己
課長補佐	〃	渡邊 謙一	主任研究員	〃	溝口 康子
庶務係長	〃	横濱 大輔	〃	〃	延廣 竜彦
専門職	〃	佐藤 正人			
会計係長	〃	神田 光紀	森林生物研究グループ長	研究職	佐藤 重徳
用度係長	〃	内山 拓	主任研究員	〃	石原 誠
専門職	〃	吉田 厚	〃	〃	佐山 勝彦
再雇用	〃	近藤 洋美	〃	〃	松浦友紀子
地域研究監	研究職	伊藤 賢介	北方林管理研究グループ長	研究職	八巻 一成
			主任研究員	〃	古家 直行
			再雇用	研究専門員	佐々木尚三
チーム長	研究職	山口 岳広			
		（森林健全性評価担当）			
チーム長	〃	石橋 聡			
		（北方林施業担当）			
チーム長	〃	嶋瀬 拓也		研究職	29 名
		（林産物市場分析担当）		一般職	11 名
チーム長	〃	石橋 靖幸		技術専門職	1 名
		（野生動物管理担当）		再雇用職員	3 名
チーム長	〃	山田 健			（併任を除く）
		（林業機械担当）			
チーム長	〃	北尾 光俊			
		（北方林生態生理担当）			
チーム長	〃	伊東 宏樹			
		（北方林更新動態担当）			

6. 事業予算額

(1) 事業予算額

(単位：千円)

事業科目名	予算額
<b>事業費</b>	<b>24,023</b>
<b>一般研究費</b>	<b>14,622</b>
A/北海道	4,394
B/北海道	753
D/北海道	1,050
E/北海道	993
F/北海道	172
G/北海道	1,815
I/北海道	215
機械整備費	5,230
<b>特別研究費</b>	<b>8,744</b>
交プロ/北海道	8,744
<b>基盤事業費</b>	<b>657</b>
基盤/北海道	657
<b>政府等受託事業費</b>	<b>9,705</b>
<b>農林水産省受託事業費</b>	<b>6,618</b>
農林水産技術会議事務局受託事業	6,148
林野庁受託事業	470
<b>環境省受託事業費</b>	<b>3,087</b>
地球環境保全等試験研究費	3,087
<b>政府外受託事業費</b>	<b>3,065</b>
<b>特殊法人等受託事業費</b>	<b>1,963</b>
<b>特殊法人等受託事業費（委託元政府外）</b>	<b>1,102</b>
<b>所内委託プロ</b>	<b>900</b>
<b>科学研究費補助金</b>	<b>18,161</b>
<b>寄付金事業</b>	<b>500</b>
<b>農林水産省補助事業</b>	<b>6,873</b>
<b>研究管理費</b>	<b>54,546</b>
<b>一般管理費</b>	<b>44,199</b>
合 計	<b>161,972</b>

(2) 収入契約

(単位：千円)

事業科目名	予算額
事業収入	
調査等依頼収入	327
事業外収入	
資産貸付収入	69
合 計	<b>396</b>

---

2017年3月発行

平成28年版 森林総合研究所北海道支所年報

編集・発行

国立研究開発法人 森林総合研究所北海道支所

(担当：地域連携推進室)

〒062-8516 北海道札幌市豊平区羊ヶ丘7番地

TEL(011)851-4131 FAX(011)851-4167

URL <http://www.ffpri.affrc.go.jp/hkd>

---

本誌から転載・複写する場合は、森林総合研究所北海道支所の許可を得てください。

表紙写真：林業機械（クラッシャー 撮影：佐々木尚三）